

社会福祉法人 原町成年寮

2022(令和4)年度 事業報告

目次

法人総括	-----	P1
葛飾通勤寮	-----	P3
奏かつしか	-----	P13
Craft	-----	P18
かつしかセンター	-----	P30
サザンクロスかつしか	-----	P32
ドロップ	-----	P37
はんもっく	-----	P39
糸でんわ	-----	P40
奥戸福祉館	-----	P42
アンジュ	-----	P50
シード/フォレスト/就労定着支援センター	-----	P56
シャイン	-----	P59
シャングリラ	-----	P67

事業報告〈法人統括〉

1 基本理念

①就労・自立生活に向けた支援

原町成年寮は、一人ひとりの自立した社会生活を実現するため、多様な就労・日中活動を行っています。利用者の皆様が社会の一員としての役割と責任を担いつつ、活躍成長していただけるよう支援します。

②豊かな人生を送ることへの支援

原町成年寮は、健康で安心・安全な生活を保障し、利用者の皆様が望む生活の実現をサポートしています。一人ひとりの個性を尊重し、日々の生活で豊かさを感じていただけるよう支援しています。

③地域社会への貢献を目指す支援

原町成年寮は、地域との交流や情報交換を行い、利用者の皆様が地域社会の一員として貢献できるよう支援しています。

2 事業計画の方針

法人基本理念に基づき利用者の皆様の一人ひとりの生活と就労、日中活動支援の充実を図り、障害の程度にかかわらず「働くこと、地域で生活すること」を実現できるように法人全体で連携し、支援体制を構築していきます。

運営については法人機能の強化を図り、人材確保は利用者の高齢化・重度化により夜間支援体制、日中支援体制においても職員の増員は不可欠となっています。こうした状況において多様な雇用形態による人材確保を検討していきます。また五年十年先を見据えた人材育成も含めた法人運営を行っていきます。

3 重点目標の事業報告

①法人機能強化

事業運営の根幹となる諸規定の整備は就業規則等の見直し策定を実施。まだいくつかの課題を残しているため、ガバナンス・コンプライアンスを重視して改定を行う予定。財務会計に関する体制強化のため経理部門をできる限りにおいてセンターに集約した。

②業務運営体制の確立

事務局に加えて、確実な世代交代をにらみ統括会議を開催することとし実施した。

③人権擁護への取り組み

各事業所において権利擁護の学習会等を実施。法人全体としても人権擁護委員会を設置した。

④第8次プロジェクトの中間見直しに実施

ガイドヘルパー養成講座の開催、Craftの多機能化、人事考課制度の評価シートの見直し等を策定し、実行に移している。第8次プロジェクトは2023年度末まで実施予定である。

⑤人材確保と育成

人材確保はコロナの影響もあり困難を極めている。特に新卒採用は厳しい。中途採用を積極的にすすめたほか、パート採用を強化した。

育成については人材育成成長検討委員会において検討し、新人研修、主任研修等を実施。

⑥災害・感染対策

各事業所において事業継続計画（BCP）を策定。今後は法人全体として首都直下型地震、台風等による水災害対策を講じる必要がある。

コロナに対して感染状況に応じてフェーズを策定した。困難を極めたが職員の奮闘により事業を継続することができた。

⑦地域との協力連携

コロナで行動制限された中においても他法人事業所との協力体制をとることができた。

以上

令和4年度

葛飾通勤寮 事業実績報告

社会福祉法人 原町成年寮

通勤寮の4つの自立の支援

1・精神的自立 2・生活の自立 3・社会的自立 4・経済的自立を掲げて、利用者一人一人の力に合わせて、課題を見極めて取り組み内容を確認している。

利用者状況

今年度も新型コロナウイルスの影響で、入寮者の見学・面接の実施が制限されてしまい、入寮者の減少につながってしまった。

入寮者

男性11名、女性5名。家庭からは13名。児童養護施設より2名。里親より1名の受け入れをした。

家庭からの受け入れが多いため、親離れ子離れを意識した入寮と、ネグレクト傾向、家庭で思春期の子供に対して支援の困難さを感じて入寮してきたケースがあった。

入寮することで、物理的な子離れはできても、精神的な子離れができない家庭が多く、通勤寮の支援に対して理解を得ることの難しさも感じた。

児童養護出身者に多かった自己肯定感の低さ、愛着障がい、幼さが、家庭から入寮してくる利用者にも多い。

精神面での支えや、社会のルール、基本的な生活習慣を整える支援を実施してきた。

知的能力は低くないが、発達障害特有のこだわりや、通勤寮や社会のルールにのっとることができない利用者もいる。自分勝手な行動が目立ち、集団生活に乗り切れない。

職場との連携も必要だが、職場からの理解を得ることにも苦勞した。

児童養護施設から入寮した利用者1名に関しては、コロナの影響で施設の方針の基、職場実習にも行けず、就職もできずに入寮。通勤寮で求職活動を実施した。

実習を重ねるたびに、出来ないこともできると言ってしまう、相談ができず勝手な行動となってしまう、就職までに時間がかかった。通勤寮内で軽作業を実施し、相談報告、できるところとできないことの自己認知をする時間をとり、支援者側も本人を理解しつつ就職に結びつけることができた。

卒寮者

男性2名、女性2名。1名は本人の強い希望で単身生活、2名は奏かつしかへ。他1名は他法人のグループホームに移行した。

単身生活者希望の1名は、精神障害と発達障害が強い利用者で、入寮当初から支援拒否が続いていた。計画相談と連携し、居住する地域の計画相談事業所に登録し、支援に入ってもらおうようお願いしていたが、本人が拒否し支援することは難しく、結局金銭管理もできず電気ガスも泊まった状態。就労もままならず出身児童養護施設が介入し、グループホームへの移行が決まった。支援拒否のアフターケアも難しく、本人も辛い生活になってしまいしんどかったことだろう。単身生活の難しさとアフターケアの難しさを感じたケースだった。

グループホーム移行者に関しては、奏かつしかと連携をとりながら協力していただきたい。

退寮者

途中退寮者は1名。家族支援がままならないため特別支援学校と入社した職場が積極的に入寮を進めてきたケースだが、結局は家族への想いが強いことと、通勤寮内での人間関係につまずいたため退寮希望がでた。精神疾患があり、本人が対人関係に傷つきやすいことを理解し、もう少し丁寧な支援があったのではないかと悔やまれるところもある。

週間プログラム及び年間行事

金銭（毎週火曜日）・身辺（毎週金曜日）・自治会（月1回第4月曜日）・大掃除（月1回第4日曜日）・教養（第4金曜日）に実施した。

・金銭学習について

毎日の金銭出納帳の記入と、次期給与の振り分け表作成、個別費用チェックで一週間の自身の使い方の見直しをしている。自分の給与で生活を組み立てることを目標にし、予算内で購入することを学ぶ。出納帳を記入する習慣がない利用者や、計算が苦手な利用者も多い。

・身辺について

比較的女性は居室の整理整頓は身につけている利用者が多い。男性利用者に関しては、整理整頓、なおいに支援を入れなければいけない利用者が多数いた。その人に合わせたチェック表や、生活リズム表を作成し習慣づけをしていく。どのようにすれば綺麗さを維持できるのかを一緒に考えてきた。また、必要な衣類等の確認、買い物までを指導した。

・自治会

利用者主体の考え方に則り自治会を開催。利用者同士の話し合いの場を設けた。役員を筆頭に、生活をよりよくするための話し合いを実施した。行事ごとの話し合いなどもしたかったが、コロナウイルスの影響で中止になる行事が多く、役員の活躍の場が少なかった。

・教養

社会で生活するために必要な知識に焦点をあて必要な情報を伝える内容を心がけた。

4月通勤寮について・5月体調不良の対処法・6月光熱水費について・7月食事の選び方
8月マナーについて・9月歯磨きの大切さ（歯科衛生士による講義）・10月未来の身体今から作っていかう・11月社会人としての行動・12月社会人としての責任・1月仕事、働くこと・2月金銭について・3月まとめ、今後の生活

・性教育について

茶話会（女性）

月1回午前中に実施。午後はヨガ講師に来てもらいヨガを実施。「性」について様々な知識を学んでもらえるように検討した。学習のみでなく、自分の中に落とし込めるように内容を工夫した。コロナウイルスの影響で一部中止があった。

4月茶話会、ヨガの意味・5月自分を大切にすること、生理について・6月シチュエーションに合わせた格好・7月中止・8月女性ならではの健康管理・9月気持ちの整理・10月男女の距離感・11月中止・12月見えない距離感、クリスマスカードづくり・1月今年度振り返り・2月今年度の振り返り・3月「性」についてのまとめ

男子ミーティング（男子）

コロナウイルスの影響で全体で集まることができず、資料を渡しそれぞれで読んでもらうこともあった。全体テーマとしての「相手を知り、自分を知る」さらに「どんな自分になりたいか」にそって毎月のテーマを考えた。

また、その後にスポーツをして体を動かし、ストレス発散とスポーツを通じ相手を思いやる心を意識して伝えてきた。

4月良い関係をつくるには・5月自分の取扱説明書作成・6月自分の苦手について・7月社会人としての身だしなみ・8月相手の事を考えよう・9月相手の事を考えよう2・10月距離感を知ろう、意識しよう・11月大人の男性としての立ち振る舞い・2月できる男のチェックリスト・3月将来について

その他

地域のボランティアをお願いし、楽しみながら生活に必要なことを学べる機会

・調理教室

月一回の日曜日に実施。男性2名・女性1名の希望者で実施した。自分たちで作りたいものを考え買い物もしてもらった。

4月オムライス他・5月ペペロンチーノ他・6月お好み焼き・7月焼き鮭・みそ汁・8月中止・9月冷やしタンタンメン・10月パンケーキ・11月シチュー・12月中止・1月ナポリタン他・2月

・裁縫教室

月一回日曜日に実施。それぞれ作りたいものステッチ、バックなどを選択し、手縫い・ミシンを使って作成。出来上がりの満足感を得ることができた。

・行事

5月オリエンテーション

通勤寮内で三か所に分かれ、zoomを使用して密をさけた形で実施。録画もできている。

7月納涼祭

ロックダウンの為中止

8月サマーキャンプ

コロナの為中止

10月班旅行

宿泊はコロナの為中止し、日帰り旅行を班ごとに楽しんだ。西武遊園地・八景島シーパラダイスに出かけている。

11月スピーチフォーラム

コロナの為中止

かつくら祭

コロナの為中止

12月忘年会

食堂にて豪華な食事を楽しんだ。一年間の表彰式も実施。

1月正月旅行

自宅に帰れない利用者と群馬県草津温泉へいった。参加者8名・職員2名。

成人式

本年は男性3名、女性2名の成人者がいた。家族・来賓・利用者全員でお祝いの会を実施。会食や餅つきを楽しんだ。

3月自治会行事

後樂園遊園地と夕食に東京ドームシティー内の豪華中華を楽しんだ。

・職場定着支援

現在一般就労21名（うち本年度就労継続B型から1名、職業訓練校から1名の就職が決まった）。児童養護施設から就職が決まってなく入寮した利用者に関しても、3月に就職が決まった。

コロナ過でなかなか職場訪問が実施できない状況だったが、少しずつ緩和されてきた印象だった。訪問が難しくても、電話で状況確認するなど、連携をはかってきた。

働くという意識が低い利用者も多く生活の場面と連動して職場定着支援をする中で意識付

けができるように働きかけてきた。

また、特別支援学校や他機関との連携をし、職場定着に協力をお願いした。

働くための作業能力はあるが、精神的に不安定な利用者も多く、精神面での支えが課題となり、職場にご迷惑をおかけしてしまうこともあった。

・地域移行支援

地域移行支援員2名を中心として、余裕をもってスムーズに移行ができるよう支援した。今年度は奏かつしかのグループホームに2名。他法人のグループホームに2名。一人暮らし2名の移行者がいた。

移行するまでの段取りを各関係機関と調整させてもらい連携をとった。

移行後の支援として、アフターケアも実施し、移行後の様子もうかがうことができた。

移行に当たっては、早い段階で自身が選択できるよう、見学や一人暮らしに必要なこと等を学べる機会を引き続きつくっていききたい。

・連携型グループホーム（葛の葉）

通勤寮と同等の支援の提供という役割がある通過型のグループホームなので、通勤寮のプログラムや行事に参加してもらった。

通過型なので、期限がくれば次の生活の場を探さなければならないので、地域移行支援の連携業務が求められる。

今年度は、調理員も配置し、朝夕の食事提供をグループホーム内で可能にし、利用者の負担軽減と安心できる環境を整えることができた。

・利用者健康管理

7月12月の年2回健康診断を実施。12月にはインフルエンザ予防接種を実施。

コロナウイルスには、利用者7名感染。職員3名感染。一名ずつの感染でクラスターは予防できた。ワクチン接種も任意で実施した。

今後も第五類に引き下げられるが、事業所としてできる限りの感染対策は実施していく。

カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを受けている利用者は3名。カウンセラーとの連携で、生活の場での支援のアドバイスや気づき等を共有させてもらった。

カウンセラーとの日程調整での漏れがあったので注意していききたい。

服薬管理

鍵のかかるロッカーで管理をしているが、服薬忘れなどのヒヤリハットが多い。

精神薬を服用している利用者も多くなり、管理には十分注意していきたい。

また、通院日程の管理、同行なども多くなってきている。家族にも協力していただき、漏れのないように連携していく。

・預り金管理及び日常の金銭処理

基本的に給与が入ったら、利用者がATMで引き出してくるようになってきているが、その際使い込みが2件あった。自身の預金からの使い込みではあるが、大切な貯金として小遣いからの返金をしてもらった。定期的な通帳記帳と確認が必要。

振り分け後の個袋の締めについても迅速に実施する必要があった。

預り金総額は、年度末で約2千9百万円。

・体験、短訓利用

体験、短期訓練の総利用数は175日。体験利用者数16名。短訓利用者数14名。

地域や特別支援学校へ、次の生活の見通しとして利用していただくが、コロナウイルス感染者が寮内で出てしまい、利用中止になってしまった期間があった。

利用後に実際に入寮しているのは4名。

引き続き入寮者の確保としても、体験・短訓事業は継続できるようにしていく。

・給食

三月に調理員2名の退職があった。常勤1名は他事業所から異動。常勤2名とパート職員1名で調理を実施している現状。求人媒体を利用し、調理員募集中である。

その中でも、できる限り外部弁当を利用せず、通勤寮内での手作りを意識した。

衛生管理

〇157やノロウイルス感染予防対策として食事前の手洗いうがいの徹底を呼び掛けた。

食堂テーブルや配膳代の消毒も徹底。食堂、厨房の清掃も同様に二か月に1回の定期清掃を実施。害虫駆除も年二回業者をお願いしている。

栄養士との月1回の献立検討を実施し、利用者の好みを献立に盛り込んだ。季節を楽しむ食事提供もした。

栄養士が3月で退職。他事業所の栄養士と連携させてもらうこととなる。

・家族との連携、他機関との連携

9月に家族会を実施。たくさんの家族が集まってくださった。通勤寮での利用者の様子やコロナ対策、グループホームの見学を実施した。

広報として、葛飾通勤寮ニュースレターを年4回家族や近隣特別支援学校、児童養護施設等に郵送した。

プログラム体験会はコロナウイルスの影響で実施できていない。

・地域、防災

東堀切町会に加盟し、災害活動協定を結んでいる。町会の消火器を葛飾通勤寮敷地内に設置。

お祭りなど町会との連携はコロナウイルスの影響でほぼ中止になっている。

成人式には町会長、副会長が出席してくださった。

防災訓練

毎月避難訓練の実施を実施した。火災や地震を想定しての避難訓練。利用者にあらかじめ伝えずに訓練する時もあったが、毎月の訓練の成果があり、スムーズに避難することができている。

防災館の利用は、コロナウイルスの影響で中止とした。

Craftと奏かつしか合同の防災委員会では、BCP計画を完成させた。防災用品や食料の見直しは適宜実施。9月には、日章警備にお願いをし、合同で職員に対しての避難訓練や、消火活動、AEDの使い方を学んだ。さらに、試しに炊き出しを実施したが、着火までに時間がかかるなど、新たな問題点が見つかった。

・その他の活動

苦情解決事業

月一回オンブズマンに来ていただくことを予定していたが、コロナウイルスの影響で今年度は中止となった。

社会福祉士実習生の受け入れ

今年度は、社会事業大学から2名、日本福祉大学から1名の実習生を受け入れた。

虐待防止対策

虐待防止委員会を設置し、外部研修をオンラインで受けた。虐待防止セルフチェックや

Craft・奏かつしか職員と合同で研修会を実施している。

福祉サービス第三者評価

一般社団法人 結 にて第三者評価を受けた。利用者の状況に応じて、利用者評価は毎年違うが、素直な気持ちが汲み取ることができた。職員の評価に関してもリーダー層と一般職員層との考え方のバランスが良いことを評価いただいた。

今後は利用者確保に向けて、色々な媒体を試行錯誤していく必要があるのではないかと提案もいただいた。

個人情報保護

個人情報保護規定に基づき、個人情報保護に努めるため、今年度は大塚商會に協力頂き、コピーをカードリーダーにし、だれが何をコピーしたのかなどがわかるような設定を導入した。

職員の支援力強化のための内部研修

内部研修を実施し、支援力強化と、職員同士のコミュニケーションの場として今年度は2回実施することができた。

・職員状況

健康管理

常勤職員は年2回の健康診断を実施。交代勤務のないパート職員は年1回の健康診断を実施。

メンタルヘルス・ストレスチェックの実施については、年1回実施している。

有休休暇取得等については、年間5日間の取得義務や夏休、冬休取得、必要に応じての特別休暇も取得できている。また、1人年間15日以上の有給取得も可能にした。

関係団体への職員派遣と連携

東京都社会福祉協議会、東京都発達障害支援協会東京都生活サポート協会への役員として施設長が参加。

葛飾特別支援学校の連絡協議会、墨田区区分審査会委員、足立区働く部会に参加した。

外部・内部研修の参加

コロナウイルス蔓延前の直接研修参加は難しかったが、オンラインによる研修がある場合には積極的に参加できるようにした。

法人内部研修の1年目・3年目・主任等研修、人事考課研修など必要な職員が参加した。

令和4年度 奏かつしか
事業実績報告

社会福祉法人 原町成年寮

はじめに

通勤寮が東堀切地区に移転し、5年。通勤寮からの卒寮生を受け入れるべく、6ヶ所のグループホームを開設。グループホームでの利用者の状況に併せて、利用者の移動や新グループホームの開設等してきた。

通勤寮で学んできた生活習慣を基盤に、利用者それぞれの想いに沿い、視野を広げ、自分でできることを増やし、生活が豊かになるように支援してきた。

・通勤寮連携型グループホーム「葛の葉」・「ことの葉」・「ひと葉」・「ふた葉」・「ますと」「おーる」計6寮 定員20名

支援体制と利用者状況

通勤寮が支援する葛の葉を除き、5寮の勤務体制を整えるのは、職員体制上厳しい部分もあった。通勤寮卒寮者なので、比較的自己認知できており、自立度が高いため支援は入りやすい利用者が多い。しかし、グループホームに移行すれば、新たな課題や軽度ならではの課題に直面する利用者も多いため、その都度課題を分析し、利用者個人の特徴を捉え、個々に合わせた支援体制を整えていく必要もあった。

若い利用者が多いため、異性関係に関する支援は重要となる。SNS利用について、風俗等の利用など興味があつて当然であり、自分や相手を大切にす上手なお付き合いの取り組みなどにも支援してきた。時には、頭では理解していても、理性が伴わず突き進んでしまいそのような利用者もいたが、報告・相談の徹底があり、身の危険に及ぶような最悪の事態までには至っていない。状況に併せて、性教育の実施をするなど、常に危機感を持ちながら支援にあたっていく必要がある。

少人数の生活ゆえに、それぞれの言動が気になって、仲たがいをしてしまう利用者もいる。何度か仲介に入るが、改善が見込まれなかつたため、一人の利用者は寮の移動をしてもらつた。相手の気持ちを考え、自分の想いを上手に伝えるアサーティブな関係を築くには軽度知的障害でも学びと経験ができるような支援が必要と思われる。

身辺処理と健康管理

月一回の大掃除に加え、身辺処理（居室の清掃・洗濯など）ができない利用者に関しては、その都度声掛け、一緒に実施し、引き継ぎの中で職員が変わっても状況把握できるようにしてきた。

本人自身が身辺に目を向けることができないと、自ら進んで実施することは難しいが、精神的な安定と清潔な状態を保てるように、できる限り支援する必要がある。

健康管理に関しては、年一回の健康診断実施と、定期通院同行等の支援、また、薬の服薬管理を実施。

体重増加の利用者に関しては、調理にも協力を仰ぐことと、運動なども取り入れられるようにし、本人が意識できるように体重管理も実施。持病の影響で食の欲求に耐えられない利用者も、家族と連絡を取り合いながら通院同行などを実施し、本人への意識を高められるようにした。

食事管理

調理職員の病気・けがなどで、支援員の調理時間が増加。利用者にとっての健康管理や食への楽しさと、職員が調理してくれたという関係づくりの為に時間も作ってできる限り手作りのものにこだわった。

就労支援

定期的な職場との連絡や職場訪問を実施。一般企業で働くことが、精神的に追い込まれている利用者があるが、本人の働きたいという気持ちを尊重しつつ、肯定感を高められるように職場とも連携をとって進めてきた。

職場の中の環境の変化に、戸惑う利用者もあり、その都度対話をし、本人の気持ちを代弁して職場訪問していく必要がある。

各寮のミーティング・食事会の実施

小さな集団生活で起こる出来事は、利用者それぞれにストレスが積み重なっていく。利用者同士の共同生活する仲間であることの意識付け、周りへの思いやりが大切であることが大切であることを、定期的にミーティングすることや食事会の中で育んできた。

余暇支援

新型コロナウイルスの影響で3年ほど、行事などを制限されてきたが、今年度は、日帰り旅行と一泊旅行を実施することができた。

ミカン狩りやいちご狩り、観光など皆さんのびのびと楽しんでいる様子が見えた。

全体での忘年会も実施できた。

地域の方のお宅にお邪魔し、希望者による調理教室を月二回実施。他のお宅にお邪魔する作法や、地域で生活している意識付け、調理方法を楽しみながら学べた。

男女一緒の行事ごとは、健全な異性関係構築の場でもあり、今後も続けて行けるように支援したい。

また、一人で外出が苦手な人に関しては、外ヘルを利用し、ストレス発散と楽しみの場になった。

個別支援計画

利用者に聞き取りながら、半年に一回実施。計画の作成に遅れのないよう取り組みたい。

預り金管理

例年通り半期に一回の内部監査を実施。監査時期に処理が間に合わないこともあったが、大きな指摘事項はなかった。

建物保守

大きな補修・修繕などはなかった。古い建物に関しては、小さな故障等があったが、大家さんと相談しながら補修していった。

第三者評価の実施

二回目の第三者評価を実施した。
イキイキとした利用者の様子を評価していただいた。

防災・感染対策

年二回の避難訓練を実施。防災館を利用したり、利用者との防災意識を高めるための取り組みをした。
通勤寮・クラフト・奏かつしか合同の防災委員会を定期的実施。BCP 計画作成と見直しを実施。
各寮でも、防災備品などの設置もしている。

新型コロナウイルスに関して、今年度は2名感染。通勤寮内の保健室で隔離させてもらい、グループホームのロックダウンはせずにすんだ。

虐待防止

月2回の支援会議で虐待防止等報告を盛り込んでいる。虐待防止研修に職員が出席。
葛飾通勤寮・craft 合同の研修会を年1回実施した。

職員状況

健康管理については、夜勤勤務がある職員は年2回の健康診断を実施。パート職員に関しては年1回の健康診断を実施した。メンタルヘルス・ストレスチェックは年1回の実施。

有休・夏休・冬休・特別休暇の取得は積極的に取得できるようにした。有休に関しても年間平均15日以上取得ができています。

研修

葛飾通勤寮と合同の内部研修を実施。支援力向上と職員間のコミュニケーションに役立った。

外部研修に関しても、コロナ禍前のようにはいかないが、オンライン研修への参加（初任者研修・世話人研修など）は積極的に参加した。

以上

事業報告

令和4年度

社会福祉法人原町成年寮

Craft (クラフト)

1. 全体

Craft 事業開始から6年が経過した。事業所内における重度高齢化等に伴う多様な利用者ニーズに対応するため、多機能型として7月1日に生活介護事業所を開所した。今年度は利用者6名が入所し、就労継続支援B型事業所の利用者数19名、生活介護事業所の利用者数8名、総勢27名となった。

新型コロナウイルスや社会情勢の経済影響により原材料の高騰・設備維持等の価格高騰など余儀なくされ、パンの値上げや経費削減等で対策を講じた。

昨年度同様、事業所の労働環境改善の一環として、職員会議及び支援会議を定期的に日中時間内に行い、業務軽減、仕事能率向上やメンタルヘルス対策として有効の効果を示している。その反面、営業日も制限され収益に影響も与えた。

感染拡大防止に努めながら、久しぶりに余暇外出を行い、利用者に仕事の合間のリフレッシュや利用者間のコミュニケーションの場として提供できた。作業についてはタスカルカード運用して「見える化」そして「振り返る活動」を継続して取り入れていくことで、利用者の気持ちの把握や利用者自身が自分の気持ちや考えに気づく場として有効であった。適宜行ってきた教養講座、筋力向上やリラクゼーションを目的としたヨガなどは、心豊かに楽しくすごせる必要な知識を学ぶ取り組みとなった。

一般企業就労については、4名を送り出すことが出来、職場訪問や定期的な話し合いの場を設定する事により、アフターフォローを充実させ就労定着に結びついている。

一方で長期入院者1名や長期欠席の利用者2名に対し、家庭や糸でんわやドロップとも連携し行った。利用者ニーズに合わせた活動提供をし、長期欠席していた1名が週1回の通所につなげることが出来た。

今年度は第3者評価を実施し、さらなるサービスの質向上のため次年度につなげることができた。また綾瀬中学校職場体験の生徒を受け入れ、地域交流を図れた。

建物保守について、空調が壊れ早急な修繕が必要としたが、社会情勢上理由で半年も修理できない時期があった。利用者・お客様・職員の健康維持に努め、体調不良なく過ごすことができた。

2. 利用者支援重点目標

今年度もタスカルカードを軸に作業の「見える化」をし、作業の進捗状況や皆で協力し合う環境づくりで、自己肯定感を高められる様にした。

タスカルカード運営方法をより利用者にわかりやすく提示することができ、利用者のモチベーションを維持するように努めた。今日の自分は何れくらい作業が出来るか、時間を意識し、自分の許容範囲を考えながら、作業について責任を持ち一人一人が取り組んでいた。月1回の表彰では、達成感や明日から前向きに取り組む姿勢への意欲につながった。

終礼では、引き続き美点凝視をしたことを伝え合い、お互いの存在を認め合う環境を設けた。

月1回職員がテーマに沿った講座を行い、日々の仕事の心構えや活かせるマナースキルをお伝えし、実践できるよう取り組んだ。また引き続き外部講師を招き、ビジネスマナー講座を実施し、これまでの講座の復習を重ね、定着できた。

所属しているチームで話し合い、月の目標をきめたり、個別支援計画を反映した目標に向けて、毎日目標に意識して取り組めるように工夫を行った。

振り返りの時間では、利用者との会話を大切に気持ちの把握に務め、利用者は自分のことを話せる場として認識し相談をすることができつつある。

利用者の健康維持・リラクゼーションや協調性を養う為に行う月1回のヨガ、ミュージック・ケアの時間では、季節の行事を企画したり、利用者からのやりたいことを募りダンスをしたり、利用者からの積極的な行動もみられた。また希望のある作業チームに携わることで、互いのことを知るきっかけにもなり、以前よりもCraftの「チーム力」を高めることが出来た。

毎日のラジオ体操も、楽しく取り入れられるようスタンプカードに工夫をした。

3. 収支報告

年間売り上げ：11,410,888円

年間売上目標：13,150,000円 (達成率：86.7%)

4. 就労継続支援B型事業所

ベーカリーカフェ Viser Polaire (ヴィゼポレール) の運営と清掃を通して、利用者一人ひとりが「できる」と実感できるものを利用者職員で共有し、それを実践することで自己肯定感をたかめ、作業意欲の向上に努めることができた。今後も、利用者が自立した作業が確立できるよう、できることを見つけ、利用者一人ひとりの可能性を引き立てるよう支援していく。

一般就労希望者には、ハローワークでの情報提供、区役所実習や企業実習の提供をし、就労者4名を送り出すことができた。また健康への知識やマナー習得のための講座を開催し、作業で生かすことができた。

職員は、会議を通して業務の見える化・言語化を図ったが課題が残ったため今後も共通認識をもって業務遂行に努める。

4-1. 喫茶・販売

年間売り上げ：9,879,615円

年間目標 11,900,000円 (達成率：83.0%)

内訳：パン：9,432,244円 喫茶：447,371円

本年度は新型コロナウイルスの感染が縮小し規制緩和され、通年通してイートインも実

施出来、賑わいも取り戻しつつあった。

GWは5/3～5に5周年記念感謝祭を実施し、パンセット販売のほかにもお客様参加型イベントも実施出来、昨年よりも多くのお客様にお越しいただけた。大きなイベント開催は自粛したが、じゃんけん大会などテラスを使用したイベントや季節ごとにパンセットやサンドウィッチの販売を引き続き実施した。また、昨年に引き続き、月1回、葛飾元気野菜の直売所から仕入れた野菜の販売も行い、集客を図った。地域の方にも認知していただき、人気イベントになっている。

外部のイベントも秋から徐々に再開し、6件のイベントに出店した。

『Jaぱんカップ2023』では、出品した『ノワールなチャパタ』が第3位に輝き、販売イベントでは約13万円の売り上げを記録した。

全国のお客様に当店を知ってもらうために、『rebake』のサイトにてパンセットの通信販売を昨年に引き続き行った。今年度は、スタンダードなお食事パンセットとクリスマスシーズンにシュトーレンセットを販売したが、商品開発や価格設定が難しく昨年より発送数は伸び悩んでしまった。またSNSでの新たな試みとして利用者企画の動画配信を行い幅広い年齢層のお客様にご来店頂けるように努めた。

今年度からNPO法人PIPPO様のご紹介で、9月より月1回、JFE商事サービス株式会社様へサンドイッチランチの納品を始めた。季節ごとのサンドウィッチを考案し、とても好評をいただいた。

作業面では、引き続きタスカルカードを導入し、作業に見通しを立てるとともに、利用者自らやるべき作業を確認して、袋詰めや接客や作業準備等の仕事に取り組んでもらった。製造と喫茶の兼務をした利用者については、パンについてのさらなる知識を深め、接客に生かすことができた。また自分で作る商品が売れる喜びをより一層感じながら販売することができた。

イートインメニューのリニューアルにより、新たな作業提供として、デリの計量やピザのカット、デリの仕込みにも利用者に携わることができた。今年度は希望者にはローテーションで喫茶業務や袋詰めのサポートメンバーとして携われるようにした。様々な利用者が作業に携わることで、利用者同士も良い刺激になり、お互いに声を掛け合い、思いやりをもって作業ができるようになった。

目標決めの際や日々の作業の中で、利用者とコミュニケーションを交わし、接客や作業内容についての話し合いをする機会も多かった。接客用語や接客マナーに関しても、朝礼や作業内で適宜利用者へ伝え、実践してもらった結果、サポートメンバーも含め全体的意識して取り組むことができた。

事故報告として、保育園への誤納品が1件、パンの製造・納品忘れが1件、パンの味の違和感の問い合わせが1件、パンセットの内容の相違が1件、ドリンクの異物混入が1件あった。それぞれ、原因を探り再発防止の為の対策を講じた。

店舗イベント

4/12(火)～4/16(土):イースターフェア

5/3(火)～5/5(木):5周年記念感謝祭

6/14(火)～6/18(土):父の日セット販売
6/21(火)～7/7(木):七夕抽選会
7/23(土):じゃんけん大会
7/26(火)～7/30(土):イタリアフェア(サンドウィッチ、ピザの販売)
8/27(土):じゃんけん大会
9/13(火)～9/24(土):昭和レトロフェア、秋のパンセット販売
10/25(火)～10/29(土):ハロウィンフェア(来店者全員におかしプレゼント、焼き菓子販売)
11/22(火)～11/26(土):秋の抽選会、イートインメニューリニューアル
12/6(火)～12/24(土):クリスマスパンセット販売
1/5(木)1/7(土):新春初売り(福袋販売、先着5名様クッキープレゼント)
1/20(金)～2/10(金):Jaぱんカップ2023、バレンタインセット販売
2/7(火)～2/11(土):バレンタインイベント(チョコプレゼント)

元気野菜販売日

5/21(土)、6/11(土)、7/9(土)、8/20(土)、9/10(土)、10/15(土)、11/12(土)、12/17(土)、
1/14(土)、2/18(土)、3/11(土)

外部販売

10/2(日):「ああ、生まれてきてよかった展」(売上:39,322円)
10/20(木):ハッピースマイルフェスタ in コレド日本橋(売上:45,855円)
10/23(日):「中川に親しむ集い」(売上:39,237円)
11/2(木):くすのき祭(売上:5,560円)
1/18(水):ハッピースマイルフェスタ in コレド日本橋(売上:22,729円)
2/11(土):Jaぱんカップ2023 亀有リリオパーク販売会(売上:135,348円)

4-2. パン製造

本年度は新型コロナウイルスの感染が縮小し、喫茶のイートインも含めて通常営業を継続的に行うことができた。それに伴いイートインメニューをリニューアルし、新規顧客獲得と売り上げの向上を目指した。

NPO 法人 PIPPO 様の仲介で都内の各企業様に月1回のランチ用サンドウィッチやシリアルバー(企画中)を提供した。またコレド日本橋での販売会のお話しも頂いた。利用者と共に協力してパンを販売し売り上げに貢献した。来年度も様々な企業の販売先の話の頂き販路拡大に繋がっている。

毎年参加している Ja ぱんカップにおいては、最終日のイベント会場で、ノワールのチャバタを300個以上製造することが出来た。イベント期間中や入賞後にお客様の

お問い合わせを多く頂き、ご来店のお客様の反響を得ることができ集客に繋げることができた。

本年度の新たな試みとして、パン工房に勤務希望の利用者のモチベーション向上のために工房の仕事の体制を新たに整え、各チームの垣根を越えてローテーションによって多くの利用者にパン製造に携わってもらった。その際、各々の利用者に配慮し安全に仕事に取り組めるようにした。

昨年度に引き続きシニフィアンシニフィエの志賀シェフ指導のもと、新たなクリスマスメニューとしてパネットーネの製造に職員一丸となって取り組んだ。しかしながらまだ試行錯誤の途中で、商品化を目指して継続していきたい。また志賀シェフレシピのドーナツの販売や、ローマの伝統的なパンであるロゼッタを指導いただきサンドウィッチメニューとして商品化した。

新たな試みや技術、商品の企画または販路拡大に取り組んだ結果、人員に対して製造量が許容範囲を超えてしまい作業が滞ってしまう面があったが、新たな作業に対応できるように最大限努めた。

衛生管理においては講習会を定期的に行い、職員と利用者の衛生に対する意欲を高めた。本年度の食品事故0件で終わることができた。

事故報告として、バレンタインイベントの際に販売したセットの内容と広告の内容の相違があったままで、お客様に商品を販売してしまう事態になった。対応としてSNS上及び店頭で謝罪文を提示した。この原因として新たな商品の企画から販売に至るまでのパン製造チームと喫茶チームの共有方法に不備があったため、商品販売を行うまでの手順を見直し新たなマニュアルや商品企画書を作成し共有する体制を整えた。

4-3. 清掃活動、受注作業

〈年間売上〉

実績：1,240,463円 目標：1,250,000円 (達成率：99.2%)

今年度は、①『自活(自力)を育てる。適切な行動に対する称賛を行い、ポジティブな報告や申し出を増やす。』②『色々な場面で社会参加を行い、活動の意義や仕事の意義を見出せる様にする。』③『どんな環境でも自身の力を発揮出来るよう、活動ルールや衛生意識、協調性を身に付ける。』を目標として活動を行っている。

利用者が自分で報告や申し出が出来るよう促す為、昨年度同様に利用者の活動を様子見し、自身で気付けるよう対話をし、自発的な行動が見られるようになった。

また、仕事の定着化を図る為、一定期間同じ仕事を繰り返し行うことで、作業の質や作業スピードが向上していく結果が得られた。職員ができたことを伝えること事で、自己肯定感の向上・モチベーション向上することができた。

受注作業の納品や保育園の給食パンの納品、地域でのチラシ配りやポスティング業務、月一回開催した喫茶イベント(元気野菜販売会)を通し、地域の方や外部の方との接点を持つ事で、自身の役割の理解や、仕事・活動に対する理解が深まり、Craftへの帰属意識に繋がった。

利用者が入所し最初の活動場所となる為、希望の活動場所に向けて環境や活動に慣れる場になればと考えていたが、他チームに異動しても清掃班での経験が発揮出来た利用者が多くみられた。一方で仲間を思いやり協力して仕事や活動を行っていく協調性の部分に関しては、清掃時の衛生意識の醸成と合わせて取り組みの余地が残ったと思われる。

活動では、引き続きタスカルカードの仕組みや清掃方法の仕組みをブラッシュアップし、より利用者が活動しやすい環境、職員の支援力が向上する様な環境作りを行った。来年度に向けてより改善が必要な部分もあるが、継続して取り組んでいきたい。

今年度も年度途中で随時、新規利用者が入所し、清掃班の利用者数も増加している為、引き続き作業量の充足が維持出来る様に、軽作業も含め作業の切り出し、各利用者の体調や状態に合わせての作業提供等、環境設定を行った。

利用者支援では引き続き個別支援計画をベースに、利用者個々の特性に合わせての活動の提供や、個別取り組みのチェックシートの活用、希望する将来像に対しての活動提供を行った。また、定期的に利用者とは対話する機会を持ち、年度末に清掃班の利用者全員に対して活動アンケートを実施し、今年度の活動状況や、達成状況等、新年度の活動に対する参考とさせて貰った。

受注作業に関しては、従来からの受注作業は安定して年間を通して受注が継続でき、12月にスポットで葛飾区共同受注からの『飴の袋詰め作業』を受注し、売上アップを図った。

加えてSDGsの取り組みの一環として、喫茶にて廃棄として出たコーヒーの粉を乾燥し、事業所内にて消臭剤として活用している。いずれは事業所及び喫茶店舗のノベルティとして活用を目指している。

令和4年度受注作業状況

清水ハトメ⇒ハトメ部品の組み上げ、箱詰め（継続受注）

※3月に受注量増加の打診あり。（承諾済み）

ポストウェイ⇒ポストイング業務（継続受注）

葛飾区共同受注⇒飴の袋詰め（スポット受注）

次年度は、利用者と職員がポジティブな行動を共有することで、前向きな考え方や行動につなげていく事、利用者同士の交流場を増やし、楽しく活動しながら活動の意義や仕事の意義を見出せる様にする事を目指していく。また売上確保として、新規の受注作業の獲得や既存の受注作業の受注量増加を目指していく。

5. 生活介護事業所

〈年間売上〉

実績：290,810円 目標：600,000円（達成率：48.5%）

「はたらく」ことに主眼を置く目標に取り組む事で、就労継続支援B型事業所の利用者と共に活動を行う事が出来た。心身の健康を維持し、元気に活動（仕事）が出来る様に支援を行った。

活動内容は、清掃業務・受注作業・喫茶店舗のチラシ配り・企業へのパンの納品を行った。また、新しい取り組みとして、アート活動を開始。株式会社ニューモアに依頼して、ヴィゼポレール5周年を記念したシール作成し物品販売につなげた。その後株式会社ニュー

一モアと契約し、利用者の絵を納品し、他店舗のロゴに採用されて売り上げを作ることができた。アート活動は、毎週1回希望利用者が時折のテーマの絵を描き、ランチ納品の企業へのアンケートに取り入れたり、喫茶イベント等のPOPとして活用した。

個別支援計画の支援内容をベースとし、その時々自身の力を発揮する事、活動を通して社会参加が出来る事、今まで培ってきた自立の力を継続していく事を目指して取り組みを行った。

5-1. 生産活動：館内清掃・軽作業・ポスティング・配達業務

一人ひとりのニーズや体調の状況に応じ、活動内容を配慮し、就労継続支援B型事業所の利用者と清掃場所を分担する事により、清掃班全体でひとつのチームとして活動が出来た。

軽作業や配達業務、アート活動の面では、率先して取り組む利用者もみられ、利用者が主体的に作業を行う事が出来ていた。活動に対して前向きで取り組む姿もみられ、若い世代の利用者への刺激となった。

今後も一人ひとりのニーズや体調に考慮して、身体機能の維持を図り、充実した人生を送れる様に支援をしていく。

6. 行事計画

今年度は、新型コロナウイルス感染について規制緩和されたことで多くの行事が計画できた1年間であった。アルコール除菌や空気の入れ換えを行うなどして感染対策の工夫することで、新卒の利用者対象の入所式、カラオケフェスや、柴又や押上への外出行事等も実施した。

毎月1~2回ヨガ活動では、講師の三好先生と連携をしながら、夏は夏祭り、秋はハロウィン、冬はクリスマスなど季節ごとに季節性をテーマにした企画を行った。また利用者からの要望でダンス企画をヨガに取り入れることも行った。

どの企画や行事にしても利用者は楽しんで参加してくれた様子であった。利用者間での交流のきっかけにもなったり、毎日の作業活動だけではわからなかった利用者の一面を知ることができた。

来年度は、より利用者意向を反映するため各企画や行事の日程の調整を行っていく。

実施行事

4月1日 入所式

8月24日 夏祭りヨガ

9月30日 Craft フェス 2022

10月21日 ハロウィンヨガ

10月29日 外出行事 柴又（寅さんサミット）

12月24日 クリスマス会

3月8日、14日 外出行事 東京ソラマチ

7. 一般企業就労支援活動

前年度からアフターフォロー（定着支援）を行っている利用者2名について、法人内の

GH 担当者及び担当チームへ引き継いだ。

今年度も葛飾区障害者就労支援センター主催の『区役所実習』を活用し、外部実習を経験していく場を設定した。

フォレストの就労担当職員との情報交換も継続して行い、就労支援・定着支援に関する情報交換や求人情報の共有等の連携が図れ、2名の就労へ繋ぐことができた。

東京しごと財団主催の職場体験実習面談会にも複数回参加し、実習や就労に繋がったケースがあった。合わせて東京しごと財団主催の支援者向けの企業説明会に参加し、支援者の知見を広げる事、企業担当者との人脈構築を行った。

実績

<p>4月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業実習参加 2名 ・実習面接会参加 1名 ・就労支援ケース会議実施 1名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人面談実施 2名 	<p>5月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業実習参加 1名 ・ハローワーク求人情報収集 1名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 1名 ・本人面談実施 1名
<p>6月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所実習参加 1名 ・企業実習参加 1名 ・フォレスト実習参加 1名 ・会社見学参加 1名 ・就労支援ケース会議実施 1名 ・就職決定 1名 (S・Yさん) <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 2名 ・ケース会議実施 1名 	<p>7月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業実習参加 1名 ・就職決定 1名 (S・Iさん) <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 2名 ・本人面談実施 2名 ・ケース会議実施 1名
<p>8月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所実習参加 1名 ・就労支援ケース会議実施 1名 ・求人情報収集 1名 ・就職決定 1名 (Y・Kさん) ・職員会社見学会参加 1名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 2名 ・本人面談実施 1名 	<p>9月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所実習参加 1名 ・企業実習参加 1名 ・求人情報収集 1名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 3名 ・本人面談実施 2名 ・ケース会議実施 1名
<p>10月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業実習参加 2名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 1名 ・本人面談実施 2名 ・ケース会議実施 1名 	<p>11月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所実習参加 1名 ・企業面接参加 1名

<p>1 2月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所実習参加 1名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 1名 ・本人面談実施 2名 ・ケース会議実施 1名 	<p>1月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職決定 1名 (T・Kさん) <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 3名 ・本人面談実施 1名
<p>2月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所実習参加 1名 ・企業実習参加 1名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 4名 ・本人面談実施 2名 ・ケース会議実施 2名 	<p>3月 就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所実習参加 1名 ・就労ケース会議実施 1名 <p>アフターフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問実施 5名 ・本人面談実施 2名 ・ケース会議実施 1名

今年度は、4名の就労を送り出すことが出来た。各自、Craft の活動の中で目標に向け取り組みを行い、就労継続を行う力を身に付けた結果と、各関係機関と連携し、各方面から情報を入手し、適切なタイミングで支援が出来た結果だと思われる。次年度も1名の就労者を出す事を目標とし、就労継続が出来る力を身に付けられる支援を行っていく。

8. 生活支援

普段からの作業を通して挨拶や返事、身だしなみを整えるなどのビジネスマナーを習得の支援を行った。また、外部講師をお呼びし知識の定着を図った。

家庭やグループホームと連携し、利用者の健康や生活状況の把握を行っていった。

9. 健康管理

「通勤寮・GH・家庭と連携をとり、健康管理と疾病予防に努める」という事を掲げ支援を行った。コロナ対策としては、検温表の確認、朝礼での体調確認、手洗い消毒、マスクの着用、黙食などを励行した。コロナワクチン接種に関しては各自のGHや家庭の判断で、かかりつけ医療機関にて行ってもらった。

7月の健康診断は全員受けることが出来、定期的に通院をしている利用者にはかかりつけ医に結果を報告してもらった。また、12月のインフルエンザ予防接種は希望者のみ実施し、その後の感染者はいなかった。

災害時薬の管理を継続し、年1回10月に新しい薬に入れ替えを行った。頓用薬(頭痛時・腹痛時・胃薬等)・臨時処方(抗生剤)の薬など必要に応じて預かり管理、点眼薬の介助も実施。月1回の検便を利用者、職員全員実施しており、問題となる菌が検出されることはなかった。

GHや家庭から定期通院の報告を受け現状の体調を把握する事で、必要に応じて作業に配慮しながら支援を行うことが出来た。糖尿病治療中の利用者に対しては面談の時などに、食事や間食の状況を聞き取り、簡単なアドバイスをを行った。

食品衛生、感染症予防の面からも、朝礼での衛生チェックを確実にを行い、入浴が充分出来ない利用者などは、GHと連携し状況を把握しながらシフトを決めて作業に取り組む支援を行った。

ヨガの時間は利用者が楽しみにしており、音楽やダンス、ゲームの要素も含んだ内容や

季節行事の企画もして頂くことが出来た。また年齢別、世代別のクラス分けも行い、心身の状況を職員間で共有している。ラジオ体操は自由参加ではあるが、多くの利用者が継続して参加、スタンプと賞状も楽しみにしている様子が伺えた。ヨガ、ラジオ体操ともに心身の健康維持に役立つことが期待され、今後も継続していく。

10. 家族・グループホームとの連携

利用者の夢や希望を実現するためには家族やグループホーム職員との連携が不可欠である。「顔が見える関係」に主眼を置き、互いに連絡を取り合える良好な関係を築く事に努め、日々の連絡帳の活用、必要に応じて電話連絡や、ケース会議、個別支援計画面談の同席等、情報共有や支援の統一を行った。

支援に対するご意見が1件あり、謝罪しご理解を得られた。苦情解決委員会に提出した。

11. 防災計画

毎月防火状況自主点検表の作成を行い、避難訓練を実施。また、葛飾通勤寮・奏かつしか・Craft 職員合同の防災委員会を実施し、BCP 計画策定及び修正を行い、防災備蓄品の整備を行った。

次年度に向けては、避難訓練の際、訓練の流れや訓練時の各職員の役割分担を共有し、有事に即した訓練が実施出来る様にする。各自が場面に応じた対応が出来る訓練を実施する事を目指す。

想定場面：①通所時 ②活動中 ③帰宅・帰寮時 ④帰宅困難時

防災活動

9/8(木) : 防災委員会開催

12/22(木) : 防災委員会開催

9/22(木) : 葛飾通勤寮・奏かつしか・Craft 合同防災訓練

2/16(木) : 防災委員会開催

2/17(金) : Craft 避難訓練

3/17(金) : Craft 避難訓練

3/30(木) : 防災委員会開催

建物保守に関して

今年度も排水管の詰まりや排水部からの臭い等、活動の範囲内で建物の不具合が多数発生。都度葛飾通勤寮と情報共有を行い、建設施工会社及び修理業者に依頼し修繕を行った。また、Craft 部の空調設備が壊れ、夏場の時期でもあった為、別途移動式のエアコンを購入して対応している。

経年劣化とは考えづらい不具合も多く、引き続き建物全体の保守管理には注視が必要とされる。

1 2. 職員研修

- | | | |
|---|-----------|-------|
| ・BCP 内部研修 | 9月22日 | 全職員向け |
| ・権利擁護、虐待防止研修 | 2月19日 | 全職員向け |
| ・財務マネジメント初級研修（オンライン） | 5月11日 | 中島 |
| ・管理職員研修（オンライン） | 6月16・17日 | 中島 |
| ・続・利用者さんが飲んでいる薬を知ろう
（オンライン） | 6月29日 | 血矢 |
| ・東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 研修委員会主催
『リーダー研修』～アドラー心理学に基づく 勇気づけのリーダーシップ～
（オンライン） | 11月2日・16日 | 玉木 |
| ・葛飾区障害者就労支援部会 一般分科会 | 11月28日 | 玉木 |
| ・マーケティング研修（オンライン） | 9月6日～8日 | 中島 |
| | 10月5日～7日 | 中島 |
| | 2月15日～17日 | 中島 |
| | 3月8日～10日 | 中島 |

2022年度

かつしかセンター事業報告

2022年度3月末実績

定員265名 現員241名

ユニット数51カ所 サテライト3カ所

退寮

- ・他法人GHへ3名
- ・入所施設へ1名
- ・単身生活や自宅復帰2名
- ・死亡1名

GH

- ・欠員の解消が出来なかった。
- ・利用者の高齢化や重度化に対して、通所先の協力やヘルパーを独自に配置、訪問看護の活用等で何とか支援出来ている。
- ・【和】を廃寮した。

余暇

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、十分には行えなかった。

健康

- ・インフルエンザ予防接種と新型コロナワクチン接種を実施した。
- ・生活習慣病（高血圧や糖尿病）に罹る利用者が年々増加している。食事面や運動等の対処も必要となり、宅配弁当の利用やウォーキング等を実施した。
- ・複数の重篤な病気を抱えた利用者が増え、医療機関との連携や生活の場所の見直し等の対応に苦慮した。

その他

- ・居室清掃については、やり切れていない部分の内、共有部分は奥戸福祉館へ委託、各居室は清掃専門職員や担当職員で行った。
- ・職員向け外部研修は、常勤職員の内65%の職員が受けられた。
- ・各ユニット年2回の防災訓練を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症により、ロックダウンを行った。利用者の状況やGHの形態等に応じてその都度対応を変えねばならなかった。陽性者を隔離する場所の確保とその支援に苦慮した。

事業報告

2022年度

社会福祉法人原町成年寮
サザンクロスかつしか

1, 支援方針

すべてを新型コロナウイルスのせいにはせず、可能な限り、本人の幸せのために、代替案を考える。コロナ後の生活を想像し、準備を始める。コロナが小康状態になるのを待ち構え、積極的にプログラムを検討し、実施する。

《支援上、大切にすること》

- (1) 幸せの形は十人十色。個人としっかり向き合い、未来につながる支援をします。
- (2) ライフステージに合わせた支援を提供します。
- (3) 利用者も職員も人生を謳歌し、幸せになります。
- (4) 安心、安全、清潔な環境を作ります。
- (5) 地域に愛されるグループホームを目指します。
- (6) 職員間で情報を共有し、チーム一丸となって働きます。

昨年度のコロナ禍よりも、現場の対応や発生時の体制作りが、柔軟に対応出来た。陽性者発生時、職員体制は厳しいものがあつたが、利用者の不利益は若干減少し、コロナ禍の合間合間に余暇活動を入れることで、ストレス解消にもつなげた。職員の価値観の違いに、翻弄された2年間になつたが、利用者の幸せのために何が出来るのかという本来の方針を見直すいい機会になつた。

2, 今年度取り組む課題

(1) 個別支援計画の充実

- ① コロナの状況を見極め、コロナ感染者の増減に対応した個別支援計画を作成します。

支援者が積極的に支援を組み立てる姿勢が見られ、コロナ明けの計画にも、利用者と相談しながら、見直しを立てながら、今後につながる支援が出来ていた。

(2) 洪水に対する、防災対策を行います。

- ① 洪水後のBCP(事業継続計画)を作成します。
- ② 他法人・他事業所間との災害後の協力体制を模索します。

計画の完成には至らなかつたが、葛飾区から派遣されたコンサル担当とは話が出来た。洪水後の復旧活動については、引き続き解決方法は見つからず、課題が残る。来年度は、グループホームのユニットが増えるので、再度避難計画を作り直す。

(3) 支援者の労働環境を整え、事業所間の協力体制を作ります

- ① シャイン従たる事業所「つむぎ」と行動援護事業所「ドロップ」と連携し、具体的な支援体制を作ります。
- ② 各グループ間で、兼務・応援体制を作り、勤務に反映させます。

- 1) 東立石チーム、ゆるりチーム、あさもえチームのサビ管会議参加者は、協力体制を取って、各自外回り業務をヘルプでは入れるようにします。5月、6月で引き継ぎ、7月から正式にヘルプ体制を取ります。
- 2) なぎさチーム、みさきチームは、各キャップが相互に夜勤に入ります。
状況が許せば、各リーダーの相互夜勤も検討します。

シャイン従たる事業所「つむぎ」と連携し、支援を行うことが出来た。行動援護事業所「ドロップ」とは情報共有しながら、余暇活動に充実されることに効果があつたが、具体的な協力体制は作ることは出来なかつた。東立石チーム、ゆるりチーム、あさもえチームの協力体制は、コロナ禍の対応に追われ、検討さえすることが出来なかつた。

(4) サービス管理責任者会議の機能を増強します。

- ① 業務の明確にして、次の人材を育てます。

<主任・キャップ業務>

- 1) 個別支援・個別会計・食費・光熱水費・日用品費の統括
- 2) 個別支援計画の作成
- 3) 勤務表の作成、別支援チームとの連絡調整
- 4) 対外機関(職場・日中活動の場・医療機関・実施機関他)との調整(統括として)
- 5) 家族との調整(統括として)
- 6) 支援スタッフへ指導・助言
- 7) 受給者証、支給決定の確認

<所長業務>

- 1) 市区町村、東京都への報告・相談(重要事項を中心に)
 - 2) 提供するサービスの質の評価と改善(提供された支援の確認)
 - 3) 利用者・家族に対する相談及び援助(重要事項を中心に)
 - 4) 従業員の勤務体制の確保、採用に係る事項
 - 5) 緊急時の対応、非常災害対策等の準備
 - 6) 記録の整備、個人情報管理
 - 7) 利用者の身体拘束等の禁止の順守
 - 8) 受給者証、支給決定の確認と請求業務の確認
- ② サビ管研修、GH運営協議会研修にファシリテーターを派遣します。
 - ③ 都コーディネーター事業の事務局機能及びコーディネーター機能を持ちます。
 - ④ 各支援チームで、内部研修を実施します。内容については、サービス管理責任者会議で検討。
人権、権利擁護を絡めた研修を年2回を予定します。
 - ⑤ 全体会議 今年度も中止。コロナが終息した際は、別途、検討します。
 - ⑥ サービス管理責任者会議
各チーム間の連絡調整、困難事例、懸案事項の検討、リスクマネジメント委員会・虐待防止委員会を兼ねる。所長、各チーム主任およびチームリーダーが出席。月1回、統括会議の翌日の水曜日実施。
新型コロナウイルス拡大時は、ZOOMを使って、WEBで開催します。

月日	時間	月日	時間
4月 6日(水)	13:30~14:30	10月 5日(水)	13:30~14:30
5月11日(水)	13:30~14:30	11月 2日(水)	13:30~14:30
6月 8日(水)	13:30~14:30	12月 7日(水)	13:30~14:30
7月 6日(水)	13:30~14:30	1月11日(水)	13:30~14:30
8月 3日(水)	13:30~14:30	2月 8日(水)	13:30~14:30
9月 7日(水)	13:30~14:30	3月 8日(水)	13:30~14:30

- ⑦ 支援会議
各支援チームで、月1~2回の支援会議をおこなう。リスクマネジメントの検証もおこなう。
周知検討事項の他、個別支援計画の策定、検討の場とする。

概ね、計画通りに実行することが出来た。毎月、サービス管理責任者会議実施時に、リスクマネジメント委員会・虐待防止委員会と一緒に、効率化と内容充実に配慮した。サービス管理責任者会議が、事業所全体の周知事項の確認の場として機能していた。

(5) 預かり金の管理システムの充実及び構築

- ① 通帳・印鑑の主任・サビ管管理
- ② 個別会計管理ケースの施錠化
- ③ チーム内監査の実施(年2回)
- ④ 内部監査の実施(年2回)は、グループ監査の予定だが、コロナが終息すれば、全体で実施する。

預り金は適切に管理することが出来た。内部監査は、1回目はチーム内監査、2回目は、全体を半分に分け、コロナ禍に対応しながら、久しぶりに全体に近い形で、内部監査を行うことが出来た。

3. 研修

(1) 内部研修

全員が集まっての内部研修は中止。コロナが収まれば、別途、検討する。

(2) 外部研修※詳細別紙参照

- ① SDS(Self Development System 自己啓発援助制度)を採用し、自発的な研修参加。
- ② サービス管理責任者会議からの指名。
- ③ 計画的な施設見学は、今年度は中止する。
- ④ 支援員1人に付き1回、興味のあるオンライン研修に参加し、研修報告を上げます。

(3) 資格取得研修

- ① 移動支援従事者
- ② 行動援護従事者

③ 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・認定心理士

<参加予定研修>

1	自閉症支援入門研修会	15	障害者のためのレクリエーション支援者養成研修会
2	全国知的障害関係施設長等会議	16	障害のある人を支援する防災研修会
3	全国自閉症者施設協議会研究大会	17	排泄支援の知識と技術の基礎講座
4	全国グループホーム等研修会	18	ダウン症支援セミナー
5	アムニティネットワークフォーラム	19	日本ダウン症会議
6	日本グループホーム学会全国大会	20	てんかん基礎講座
7	自閉症セミナー認知発達治療の理論と実践	21	ターミナルケア基礎研修
8	自閉症セミナー	22	高齢知的障害者支援のスタンダードを目指して
9	日本自閉症スペクトラム学会研究大会	23	社会福祉士実習指導者講習会
10	全国知的障害福祉関係職員研究大会	24	行動援護従事者養成研修
11	摂食指導(基礎・実習)講習会	25	移動支援従事者養成研修
12	リスクマネジャー養成研修会	26	全身性障害者移動介護従事者養成研修
13	「個別支援計画」作成および運用に関する研修会	27	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
14	包括的暴力防止プログラム(CVPPP)	28	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)

(4) OJT研修

① 新人職員に、目指すべき目標を提示し、終了時に評価する。OJT担当を指名、3ヶ月間設定し、主に最初の1ヶ月間を重点的に実施します。

② 始めて会計を持つ際に、会計のOJT担当を指名し、1ヵ月ごとに会計を締めながら、習熟度を確認する。主任・チームリーダー・所長の許可が出たら、一人で会計が行える形にします。

虐待研修等は、全体ではなく、各支援チームで行なったために、各チームの実態にあった内容の濃いものになった。昨年度と引き続き、コロナ禍で中止になる研修が多かったが、支援員1人に付き1回、オンライン研修に参加し、研修報告を上げることが出来た。

4. 法人事業・委員会担当

(1) 法人内事業所全体

- ① 労働衛生安全委員会 松本拓
- ② かわら版編集委員会 山田将
- ③ PC委員会 山田遼 ・ 正能
- ④ 給与検討委員会 野村

(2) 事業所内業務担当

- ① ハラスメント委員会 加藤拓 ・ 小河
- ② 虐待防止委員会 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ③ リスクマネジメント委員会 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ④ 苦情解決委員会 久保 苦情窓口 (清水 ・ 宮川)
- ⑤ 防災委員会 大島 ・ 鈴木健 ・ 田口 ・ 遠野
- ⑥ 土田病院 山田遼
- ⑦ 健康診断・予防接種 中村杏 ・ 田村 ・ 杉山
- ⑧ 内部研修 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ⑨ 外部研修 松本亜
- ⑩ 余暇支援担当
 - 1)ランナーズクラブ 鈴木誉 ・ 堀越
 - 2)ソフトボールクラブ 井川 ・ 山崎
 - 3)英会話クラブ 古澤
 - 4)アートクラブ 大島

5, 支援体制

(1) 第3かつしかセンター 所長 松本亜

東立石チーム	主任	野村	キャップ	加藤(拓)	リーダー	清水	
支援スタッフ	正能	尾井	遠野	本橋	鈴木誉	中村	
担当寮	定員	担当	調理職員他				
第2東立石成年寮	6	清水	(調理)	西			
東立石成年寮	6	尾井/本橋	(調理)				
第三原町成年寮	5	加藤/遠野	(調理)	杉浦			
モア	2	中村	(調理)	後藤			
スワン	2	正能	(調理)				
キス	2	野村	(調理)				

ゆるりチーム	キャップ	高橋千	リーダー	浅野			
支援スタッフ	山田将	初谷	後藤	大野	勝又	古澤	葉山
	武井	貝森	小田(ドロップ兼務)				
担当寮	定員	担当	調理職員他				
ゆるり	10	高橋千	(調理)	小松	(早出・調理) 入江		
			(清掃)	佐藤			
ハート	4	後藤	(調理)	吉羽			
チロル	5	山田将	(調理)	新井			
くすのき	5	浅野	(調理)	戸國			
かしの木	3	初谷					

(2) 第4かつしかセンター 所長 久保 副所長 三瓶

あさもえチーム	主任	星	キャップ	宮川	リーダー	山田遼	
支援スタッフ	小河	天野	堀越	鈴木健	井川	岡田美	松田
	田村	中村久(非)	原田(夜勤専)				
担当寮	定員	担当	調理職員他				
あさぎ	7	星	(調理)	稲上・関根			
もえぎ	5	星	(清掃)	大貫			
第七原町成年寮	4	山田遼	(調理)	穂刈			
ラブ	6	小河・天野・岡田	(調理)	小針			
こい	4	堀越・鈴木健	(非常勤)	才津			

なぎさチーム	キャップ	丸井	リーダー	山崎			
支援スタッフ	加藤法	井上	大島	大山	高橋康		
担当寮	定員	担当	調理職員他				
なぎさ	7	丸井	(調理)	川島	(清掃)	大貫	
リーバーサイド	7	大山	(調理)	柏原・高木	(清掃)	大貫	

みさきチーム	キャップ	三瀨	リーダー	小椋			
支援スタッフ	杉山	山坂	堀内	寺田	松本拓		
担当寮	定員		調理職員他				
みさき	7	三瀨	(調理)	早田			
オリザ	4	山坂	(調理)	佐藤			

以上

2022 年度

ドロップ

(居宅介護・移動支援・行動援護)

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

事業活動

昨年度からの引き続きでもあるが、ヘルパーの確保を重点に置きながら、ヘルパーの質の向上も視野に入れ、運営を心掛けた。同時に、地域貢献とヘルパーの確保を視野に入れ、法人内で連携しながら、移動支援従事者研修を通算2回開催し、ヘルパー確保へも繋げることが出来ている。来年度も回数を増やししながら、地域貢献とヘルパーへの確保を視野に入れた事業の展開を今後も行っていきたい。一方で、支援に従事出来る環境の整備としては、ヘルパーとの引継ぎミスを防ぐために書面・メールを含め対面や電話にて再度確認を行う工夫を行っている。在宅利用者の支援については、ニーズに合わせた支援が行えるよう、ご本人や家族の情報を幅広く収集し分析を行えるよう努めながら、楽しく安全に外出できるよう努力した。GHの利用者の余暇支援については、担当者との連携を図り、ガイド時のご本人の様子や希望外出先等の情報共有を図り、よりよい支援に繋がられるよう支援に努めた。居宅介護・行動援護の利用者については、定期的にモニタリングを実施し、支援計画を作成。定期的なモニタリングや支援計画を行うことにより、よりよい支援に繋がられるよう、取り組みを行った。コロナ禍の中、どのような支援が利用者のストレス発散、体力面や健康維持に繋がり、安心して利用して頂けるようにすることや利用者余暇支援の充実を図るためにどうしたらいいかをヘルパー同士情報共有しながら協議し、何処かに出かけることだけでなく、ご本人やご家族の心に寄り添い、傾聴することによる支援を行えるようにしていきたい。

実績報告

月毎での実績件数は下記の通り

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
移動支援	172	174	181	173	177	176	188	172	160	178	205	201
居宅介護	12	10	8	10	12	10	14	10	7	10	10	9
行動援護	89	87	73	79	75	79	79	77	121	114	116	111

苦情解決

第三者委員会・所轄に報告すべき事項なし。
事故（ヒヤリハット）に関する事案はなし。

研修

研修においてはメンタルヘルスケア研修への参加。
今年度は主に障害者支援施設を含めて他法人への訪問を行い、移動支援従事者研修の開催にも連動出来るよう学ぶ場を設け、有意義な形で進められるよう努めた。

管理運営

法人内委員会については系でんわ、ドロップ、はんもっく共通での役割分担を行い、日常的な業務の連携を踏まえ、合同して会議開催する等、確認できる機会を増やした。

2022年度 はんもっく

(自立生活援助)

事業報告

社会福祉法人原町成年寮

※活動報告

今年度の実績はなかったが、これまでも法人内のグループホームやサテライト型グループホームからの移行するケースが主であることから、今後もニーズに合わせたサービスの提供が出来るよう準備を整えながら、業務の遂行を行っていく。制度として、サービスの提供が有期限（原則1年）の中で、単身生活を見据えた生活の支援を担う事業となるが、これまで期限満了後も担当支援員への相談を含めて関わりは継続している。昨年度より制度の改定にて緩和された部分もあることから、運用の仕方を模索しながら、今後も検討を行っていききたい。

※管理運営

法人内委員会や研修については、ドロップや糸でんわ等、法人内他事業所との兼務の中での事業となることから、連動性を図りながら、業務を担っている。同時に、対象者は法人内のグループホーム等の利用を経る中でのサービス提供を行う流れにより、グループホーム担当者とも連携を図りながら、必要な支援や環境の整備をしてきている。引き続き、体制作りを踏まえ、整えていく。

2022 年度

糸でんわ

(指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業)

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

※実績の報告

2022年度の実績報告は計画相談件、モニタリング件の導入を行っている。

月毎の数は下記の表の通りであるが、月毎での件数が異なるため、段取りをしながら整備を行っている。例年通り、計画相談に関しては、利用するサービスに関しての新規利用やサービスの変更への把握に努め、更新に関しても書類作成の不備がないよう、計画的に遂行出来るよう努めた。アセスメントについても丁寧な形で整えられるよう心掛け、モニタリングに関しても利用者を含め聞き取りを重視する形を整えながら、遂行した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談	13	20	20	29	47	33	27	28	25	26	27	20
モニタリング	58	44	141	46	60	81	50	55	163	62	59	84

※社会福祉士等現場実習

社会福祉士等現場実習については下記の通り5名の実習生の受け入れを行った。

所属	性別	実習期間	窓口担当
東京家政大学	女性	令和4年8月4日～9月5日	糸でんわ
日本社会事業大学	男性	令和4年9月12日～9月27日	サザンクロス
日本福祉大学	女性	令和4年9月1日～10月8日	通勤寮
日本社会事業大学	女性	令和4年8月1日～9月2日	通勤寮
日本社会事業大学	男性	令和5年2月6日～3月10日	通勤寮

※見学対応

引き続きコロナ禍の関係もあり見学希望自体は減少傾向ではあったが、今年度も法人内事業所の利用を前提とする見学対応等であったことから、利用予定である事業所との連携を図り、随時行う形で調整した。

※管理運営

指定特定相談事業については、これまでの特定事業所加算・機能強化型の運用や行動障害支援体制加算の他に加算の対象とされているサービス提供時モニタリング加算やサービス担当者会議実施加算の申請で報酬への反映が出来るよう、運用を行っている。

法人内委員会については糸でんわ、ドロップ、はんもつく共通での役割分担を行っている。日常的な業務分担や連携を踏まえて、合同して会議を行う等、確認できる機会を増やした。苦情解決においては第三者委員会・所轄等に報告すべき事項はなかった。

※研修

今回の相談支援従事者専門コース別研修においては、意思決定支援におけるの受講を全員で行い、修了している。葛飾区で開催している葛飾区相談支援専門員研修会に関しては、年間通した参加を行っている。

2022年度

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

障害福祉サービス多機能型事業所
奥戸福祉館

I 運営全般

今年度は生活介護事業所が 35名就労継続 B 型事業所が 27名の合計 62名でスタートし 7月9月末にそれぞれ1名退所。12月に生活介護に1名入所、3月末で生活介護1名退所となり生活介護が35名就労継続Bが26名で活動を行った。

コロナとの共存3年目となりコロナ感染対策を講じてきたが冬場、年明けから家族感染が多く職員や寮の利用者、家族等陽性反応や濃厚接触のコロナの対応に追われる一年だった。しかしクラスター化せずに福祉館の活動や予定していた行事、宿泊旅行、ホテルでの忘年会、劇団四季の観劇、ボーリング大会を実施することができた。

7月より毎月2回理学療法士にきてもらった。全員の身体機能についてみてもらい必要な利用者に運動プログラムを作成してもらった。看護師を中心にトレーニングを行っている。体の硬さ使い方の悪さが多く、今後けがをしない体づくり、予防的な意味合いも含めて今後も積極的に行っていきたい。

作業は清掃洗濯チームとゆずやタッセルオリブチームとの一体化運営は、清掃チームの職員がゆず屋の店番やオリブでの活動に行く機会が増え少しずつ連携ができてきた。

ゆずやタッセルでの活動は実習という形で多くの利用者が体験することができた。実習という短期間だけでなく日常の活動でも多くの利用者がかかわれるようにしていきたい。

ゆず屋の廃棄物のリメイクはアドバイザーに相談したが実現できなかった。

グループホーム清掃活動、施設外就労先のリハビリケアかつしかの活動は安定的に活動ができたがコロナの影響で活動が休止する期間が多かった。

パンチームでは大きな収益が見込める休日の販売会や南葛SCの試合での販売に参加した。特に3年ぶりに開催された11月のフードフェスタでは2日間で南葛バーガー約1500個販売することができた。

利用者関係では退所した利用者は3名ともグループホームでの生活が難しくなり地方の施設に移行した。

福祉館改修の検討の話し合いは来年度洗濯事業を開始する方針が出たため行わなかった。新規事業と絡めて実施していく。

II 利用者支援

(1) 【就労継続支援 B 型事業所 支援方針】

〈パン製造販売チーム〉

利用者の高齢化や肥満対策のため、平日や休日の販売会を含めたスケジュールの見直しをして運動や余暇的活動を積極的に実施した。年度当初は体制の確立に重点を置く必要があり、利用者の余暇活動の充実までは至らなかった。しかし希望する利用者には他チームが行なっている余暇活動への参加や施設外就労での活動を提供し、個々の意向に沿ったやりがいのある活動の提案をすることができた。昨年度末に製品の整理を行ない、社会情勢上の影響で値上げも実施したが、変わらずご注文くださる保育園が多かった。それらのご要望に利用者と共に応えていけるように、製造・販売ともに一丸となって日々の作業に取り組んだ一年であった。南葛SCのホームゲームでの販売会に積極的に出店し、南葛SC

関係者の皆様はもちろんのこと、地域の方々の支えもあってナンカツバーガーの知名度が上がりつつあることを感じた。秋の大きな地域イベントが少しずつ開催されるようになり、新小岩公園で行われたフードフェスタをはじめとする休日の販売会への参加により利用者が地域での達成感を得られる機会が戻ってきた。

短時間利用者、普段の生活や健康面に不安を抱える利用者からは特に丁寧に話を聞いたり、ご家庭や寮職員との連絡を密にとるように心掛けた。必要があれば通院同行して、医師やご家族と直接対話する機会を設けた。今後はより幅広いニーズに応える支援力を養い、ご家族や寮職員との強固な関係性構築と地域の関係機関との連携にアプローチしていきたい。

地域交流はコロナ禍のため実施できなかったが、福祉教育の一つとして製造工程を紹介するパンフレットは作成した。来年度の配布に向けて学校と連絡を取り合っていく。また子ども食堂への提供は継続していきたい。「HACCPの考え方に基づいた衛生管理」の知識や大切さについて職員間で共有し、記録を継続していく。事故報告が10件あり、8月に職員でリスクマネジメントについて話し合いの場を設けた。来年度も食品を扱うことへの責任を持ち、事故を未然に防ぐように努めていきたい。

売上：16,369,408円

(内訳) 保育園：6,929,124円

休日販売会：1,083,410円

他：8,356,874円

(2) 【生活介護事業所 支援方針】

〈清掃チーム〉

「健康でいきいき暮らす」をテーマに、作業活動の中で定期的な運動など身体活動量を増やし、心身ともに健康な状態を維持し、利用者一人ひとりのウェルビーイング（幸福度）を向上させてきた。課題が見つかった利用者には、理学療法士のアドバイスを受けながら作業の空き時間や、別途時間を設け筋力維持・体力向上に努めた。

毎週金曜午後に行っている余暇の時間では「ボッチャ」を始め、「ダンス」「散歩」など身体活動量の増加を積極的に取り入れてきた。外部講師を呼び「ストレッチ・体操」を2回ほどおこなったが、定期的には実施する事は出来なかった。日々の活動の中で散歩をおこなったが定期的にスケジュールに組み込む事は出来なかった。映画鑑賞、習字教室にも多数の希望者が参加する事が出来た。

作業面ではスマイルホーム西井堀、リハビリケアかつしか、法人グループホーム清掃を中心に、館内清掃・洗濯、レンタルタオル、アルミ缶リサイクルなど地域活動の促進と利用者一人ひとりにあった作業を提供し、やりがいを感じていただくと共に多様性に応える事が出来た。また、スマイルホーム西井堀、リハビリケアかつしかに関しては、今年度いっぱい作業活動を中止している。自閉の方々に特化した事業所「つむぎ」との連携も今年度はおこなえなかった。

高齢の利用者に対し「ライフステージ表」を作成した。アセスメント（評価）を改めてする事が出来、理学療法士との情報交換に用い、今後の生活課題を検討・予見していく事に活用する事が出来た。作業時間・作業提供のあり方なども、その都度、対応をおこない、福祉館で過ごされる時間が意義あるものになるよう働きかけてきた。

ウエルピアで隔月おこなわれた発送ボランティアに参加する事が出来た。タスカルカードを再構築し、一日の振り返りをおこなう事は出来なかった。学習活動はiPadを使用し、金銭に関する勉強をおこなった。今年度は創作活動も多々おこない、ウエルピアの障害者作品展に出展する事が出来た。

○売り上げ	697万
・館内清掃 洗濯	144万
・生活寮清掃（お墓清掃含む）	232万
・施設外就労	205万
・かわら版	30万
・レンタルタオル	37万
・アルミ缶リサイクル	33万
・その他	16万

〈ゆず屋・オリーブ・タッセルチーム〉

昨年同様、立石図書館、区役所と連携し、感染症対策を実施した。緊急事態に備え推奨していた救命講習は1名が受講した。

ゆず屋では残品処理の為、事業ゴミの廃棄コストが増加していたが、寄付品を受け取る際の選別の徹底、値引きセールの実施、ゴミ回収業者の変更、資源ゴミを分別して出すことでコスト削減に繋げる事ができた。

ゆず屋内アンテナショップコーナーでは、法人内事業所による自主生産品の折り鶴アクセサリーやアイロンビーズで作ったスイッチカバー、色鉛筆のセット販売を行ない好評な売れ行きであった。

ゆず屋での実習希望者には、地域の方と触れ合う中で、販売員として接客をはじめレジ会計、値付け、陳列、清掃など行い社会交流の場を提供できた。実習を通し、自身の可能性を見いだせた人や、ゆず屋で働く人に感化された人など、来年度以降も継続して実習に取り組みたいと意欲的な声が多数あがっている。

タッセルではパン工房ももちやんで製造したパンを不定期で販売している。おいしさに定評がありリピーターもできている。

オリーブ内の不要な設備や備品を廃棄したことで活動スペースを広げ、働きやすい環境を整えている。洋服の値付けや食器拭き、食器の緩衝材としての新聞切り、パズルの検品、清掃、散歩、買い出し、字の練習、絵描き、アルミ缶潰しなど各利用者に合った作業を提供した。

奥戸のリサイクルチームでは、利用者が働きやすいように作業場のレイアウトの変更をした。清掃チームと連携を取り、アルミ缶潰しを行い、身体を動かす作業を取り入れた。

搬入搬出、商品値付け、カード検品、磨き等、各利用者がもつ力を発揮できるように作業提供している。

売上：10,589,760円

ゆず屋：8,918,240円

タッセル：1,671,520円

2 余暇支援

3月18日(土) サニーボール青戸ボウルでボーリング大会を開催した。利用者41名参加した。コロナで集団での活動が制限されていたことが解消され友達とボーリングしたいという希望がかなえられた。

3 就労援助

葛飾区就労支援事業(葛飾区補助事業)

クラフトと連携し、情報交換を行ったが就職を希望している利用者はいなかった。

4 保健

1. 健康管理

- ① 毎身体重・血圧測定を行い毎月の変動を確認。血圧の上昇が持続している方は内科相談時に嘱託医に相談・館内にて血圧測定を開始し、かかりつけ医受診時に血圧測定表を持参してもらった。
各個人の体重表・BMI表を10月に各自に配布し、食生活・運動習慣を見直して頂くよう投げかけた。
- ② 定期健康診断(6月30日)：52名の利用者が実施。その他7名の利用者は各自で実施し、結果を持参してもらった。
定期健康診断の結果については各家庭・寮へ配布し再検査が必要な利用者に関しては検査を受けるよう促した。
- ③ 歯科検診(6月21日)：原田歯科往診
利用者全員が対象。齲蝕・歯肉の状態・磨き残しを診察してもらい、結果を各家庭・寮へ連絡。
歯科受診が必要な利用者には受診を促した。
- ④ 歯磨き指導：毎年2回原田歯科往診にて利用者全員を対象に歯磨き指導しているが、今年度はコロナウイルス感染流行の影響により飛沫のリスクを考慮し中止。
代わりに原田歯科からの歯磨き指導の動画を利用者に視聴してもらった。
- ⑤ 内科相談：毎月第2月曜日立石医院(塚原 Dr) 往診
毎月12~14名の利用者を対象に実施。血圧の変動や健康診断の結果、症状、日頃の様子から利用者本人や職員が気になることなどを相談し、生活指導や通院を勧めることで病気の早期発見や悪化を防ぎ、治療を早期に開始できるよう努めた。
- ⑥ インフルエンザ予防接種(11月14日)：立石医院往診
希望者48名の利用者に対し実施。

- ⑦ 新型コロナウイルス感染の早期発見・予防のため通勤前・出勤時に体温測定してもらい発熱の有無を確認。体調不良者は自宅療養や、館内にて抗原検査施行あるいは通院するよう各家庭や寮へ協力してもらった。
- ⑧ 新型コロナウイルスワクチン接種
 - 4回目（9月3日）希望者33名の利用者に対し実施。
 - 5回目（12月17日）希望者26名の利用者に対し実施。

2. 機能訓練：柿澤PT（8月～）

理学療法士に、機能訓練が必要な利用者进行评估・看護師による機能訓練内容を考案してもらい、その内容に沿って（15名）週2～3回機能訓練を実施し、筋力の強化・維持に努めた。

3. 衛生管理

- ① 検便による細菌検査の実施（利用者・職員対象）
- ② パン製造・販売従事者、タッセル従事者は月1回
- ③ 給食の食器洗い従事者は6～9月は月2回、その他は月1回
- ④ 上記以外の方は年1回

4. 職員の健康管理

- ① 10月～11月にかけて葛飾健診センターにて健康診断の実施。
- ② 利用者同様、出勤前または出勤時に体温測定をするよう促した。
- ③ 定期的にPCR検査・抗原検査を施行し、コロナウイルス感染の早期発見・拡大防止に努めた。

5 全館行事

7月に一泊二日の宿泊旅行と12月浦安のホテルでの忘年会は行うことができた。久しぶりの外出行事で利用者の方は大変喜んでいました。

10月11月で劇団四季、ライオンキングとアラジンの観劇を4グループに分かれて実施した。

6 地域交流

【地域交流】

昨年度から引き続き月1回区役所でフラワーメリーゴーランドという花がらつみや花の植え替え作業のボランティアを利用者7～8名職員2名で行った。ウエルピアでの通信発送ボランティアの活動を奇数月利用者2名と職員1名で行った。

今まではボランティアをされる側だったがする側へのとりくみができ利用者も毎回参加することをとても楽しみにしている。

子ども食堂に定期的にパンを寄付するとりくみを引き続き行った。

【ボランティアの受け入れ】

コロナのためやまも祭が中止になってしまいボランティアの受け入れはできなかった。

7 利用者自治会

イベントの運営や司会等の進行、装飾を中心に、利用者の意向を取り入れ意識的に関わられるように心がけ支援を行った。

8 家庭との連携

連絡帳を活用して家族や寮との連携を図った。必要に応じて電話連絡や面談グループホームの利用者は合同処遇会議を行った。

定例家族連絡会はコロナ感染防止のため行わなかった。3月に館長交代の説明のため臨時家族連絡会を開催した。

9 リスクマネジメント

- ・パン関係11件、ヒヤリハット4件とけが7件、車両事故が7件だった。
- ・パン関係は、納品したパンのスライスの枚数違いと、表示シールの貼り間違え、納品時間間違えだった。
- ・怪我は利用者が作業中に階段下で転び右肋骨背骨折、車のドアに手を挟む怪我2件、服薬忘れ3件酔い止め薬2重服薬1件利用者同士のトラブルでの怪我2件、帰りのヘルパー待たずに帰宅1件、柵の破損で手を3針縫う怪我があった。
- ・車両事故は、駐車時や曲がる際にポールや壁、電信柱などへの接触する軽微な事故が6件、1件は送迎中に走行中の自転車と接触する事故があったが軽い怪我ですんだ。

10 広報委員

奥戸福祉館全体の活動を伝えるご家庭向けの通信を3回発行した。

原町かわら版は法人の広報委員会と協力し、編集作業・印刷・封入発送を行い、年4回の発行をした。

11 防災安全管理

防災安全管理

- (1) 訓練時は本田消防署へ自衛消防通知書を届け出のうえ実施した。
- (2)

実施日	種別	訓練内容
5月26日	避難訓練	地震発生による避難、及び通報訓練
11月28日	避難訓練	地震発生による避難、及び通報訓練
2月22日	避難訓練	火災発生による避難、及び通報訓練
3月30日	防災教育	地震発生時の対応教育（職員のみ）

- (3) 葛飾区地域防災無線の定期通信訓練を行った。
- (4) 火気施設点検を確実に実施した。
- (5) 災害用伝言ダイヤルの実施（毎月1日、15日）

- (6) 立石図書館の避難訓練に参加
- (7) 普通救命講習 1 名、上級救命講習 3 名受講した。

1 2 苦情解決事業

・地域より 5 件、利用者家族から 3 件苦情があった。

地域の苦情ではゆず屋関係 3 件。うち 2 件は店員の接客態度が悪い、1 件はチラシをたくさんポストに誤配したことだった。また朝通所途中の利用者にたたかれたとの苦情があり、説明理解を求めたが被害者の方は示談金が欲しいとのことで解決するまでに弁護士に相談したり家族との調整で時間を要した。

利用者家族からの苦情 1 件は宿泊旅行時の利用者の飲酒、(飲ませないでほしかった) 職員の電話対応、工賃ランク票の訂正の説明が不十分等の苦情があった。

III 管理運営

1 職員研修

(1) 外部研修・講習会参加実績

研修・講習会・会議名	開催日・場所	参加者
精神神経に作用する薬を学ぶ	6/29 //	児山新井小野満石川高野上条
カスタマーハラスメント防止講習会	8/3 オンライン	児山
企業向け採用定着セミナー	8/26 //	丸山
信州未来塾支援力セミナー	9/2 オンライン	高野 井澤
支援者のメンタルヘルスと対人サービスあり方	9/28 //	高野 小野満
リーダー研修	11/2 11/16 //	井澤 児山
大泉つつじ荘実践報告会	11/3 オンライン	丸山
世話人研修	11/29 北区王子	丸山
水*管更新研修	12/9 1/6	大橋
嚙下調整食	1/13 //	林
都通研ごちゃまぜ地域共生社会を考える	1/24 オンライン	山口
食品表示セミナー	1/20 //	井澤
企業向け採用定着力向上セミナー	2/10 オンライン	丸山
震災の備えBCP作成方法	2/15 //	児山
こうさい療育支援セミナー	3/3 オンライン	山口
障害者施設の高齢重度化強度行動障害対応	3/10 オンライン	山口
手の治癒力	3/22 オンライン	丸山

2022年度
生活介護事業所アンジュ
事業報告

1. 利用者状況（3月末）

○在籍状況 男性 18名 女性 13名 合計 31名
 （平均年齢）男性 59.33歳 女性 60.23歳 全体 59.70歳

○年齢別

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	0	2		6	6	4	18
女性	0	2	1	1	5	4	13
合計	0	4	1	7	11	8	31

○支援区分別

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	2	1	11	3	1	18
女性	3	1	6	3		13
合計	5	2	17	6	1	31

○推移状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	20	18	22	19	17	20	21	20	20	18	18	22	235
男性	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
女性	16	16	16	14	14	14	14	14	14	14	14	13	173
利用者数	34	34	34	32	32	32	32	32	32	32	32	31	389
出席率	86.0	84.0	83.0	81.3	83.5	87.0	87.9	85.9	84.8	85.2	86.1	88.8	85.3

・退所者2名（6月・7月法人内他事業所へ1名ずつ）

2. 利用者支援

今年度も利用者の通所意欲の維持・向上と安定した作業提供、余暇の提供を主として支援を行った。

来年度当施設は、自閉症・強度行動障害利用者の為の通所施設と生まれ変わる事となり、4月～10月までの工事期間は休止する事となった。その為、31名居た利用者のうち、長期欠席者の2名は契約解除、1名はcraft、残りの28名はシャングリラへ移行する事となり、年度末はスムーズな移行に向けての調整作業を行った。

3. 活動内容

(1) 生産活動

○受注作業

前年度に引き続き(株)東栄社、(株)オビツ製作所、清水ハトメ(株)の3社からの受注体制で迎えた今年度は、世の中がウィズコロナ政策へと大きく舵を切った。それに伴い、冷え切っていた消費マインドもほぼコロナ前の水準に戻りつつあり、結果年間を通して概ね安定して作業を提供する事が出来た。

特に今年度は(株)オビツ製作所からの受注が大きく伸長した。新しい担当者より新たに人形の組み立て作業を受注し、作業の早さと丁寧な仕上がりに先方から高評価を頂いた。その後追加で人形のパーツ毎の検品作業も任せられるようになり、前年度までのスポット取引から一転して今年度は安定して受注を頂けるようになった。

(株)東栄社に関しては倉庫担当者が定着した為、信頼関係を構築し優先的に教材の受注を頂けるようになり、ほぼ例年通りの教材を受注する事が出来た。

前年度より取引が始まった清水ハトメ(株)のサドル5個組箱詰め作業は、売上金額としては大きくは無いものの、毎週受注がある為作業の安定化に貢献した。

利用者からも「明日の作業も頑張る」等やりがいを感じている声が上がっていた。

収入

東栄社	818,862円
オビツ製作所	229,686円
清水ハトメ	118,810円

○委託作業

清掃

今年度は、清掃班活動担当職員が1名増え、2名体制で支援を行った。その事により、利用者が何かあった際すぐに職員に相談出来る状態になった為より安心した様子だった。職員も一緒に清掃活動を行ったり、清掃班メンバーに向けて清掃内容の工程を説明し、モチベーション維持に取り組んだ。

使い捨て手袋の着用を徹底し、清掃活動を終えた後も手洗い、消毒の声掛けもし、衛生面に加え、新型コロナ感染予防にも努めた。

週1回は清掃指導を行い、工程が違う場合は一緒に行い、工程通りに出来た場合は、称賛の声掛けを行った。12月には、新型コロナ第8波の影響により、GH内で濃厚接触者となった利用者が多く、その影響で清掃活動を行う利用者の数が限られてしまい、状況に応じ職員も清掃に介入した。

(2) クラブ活動

毎週金曜日に利用者の希望に沿ったコンテンツを鑑賞するDVDクラブと塗り絵や公文を通し利用者間や職員とのコミュニケーションを楽しむお楽しみクラブの2つのグループに分かれて活動を行った。お楽しみクラブでは、週替わりの手芸活動を行う事で、クラフトバンドを使用し蛙の小物入れ、リリアン編みでマフラー等を作成した。多くの利用者が週末のクラブ活動を楽しみにしており、次のDVDは何を観るのか、次回の手芸は自分の番なのか等の話が多く挙がっていた。散歩を行う希望もあった為、2~3人程の6つのグループに分かれて行い、職員とコミュニケーションを楽しんだりしていた。しかし、8月以降は、暑さの影響や新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け実施出来なかった。

(3) 体力・筋力の維持の取り組み

朝の朝礼後のラジオ体操、昼食前の嚙下体操、午後の昼礼後の介護予防体操を引き続き行った。嚙下体操は、ごぼう先生のDVDの違うバージョンを使用する事で皆楽しみながら画面の動きに合わせて体操する事で嚙下機能を高めた。

(4) 機能訓練

昨年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の為休止しており、7月にマスク着用、消毒の徹底に加え、実施日毎の抗原検査を行う事で再開している。久しぶりの訓練の為参加利用者の現在の身体機能を確認した。訓練中は雑談等しながらとても和やかな雰囲気の中で訓練メニューに取り組んでいた。しかし、9月、10月は再度新型コロナウイルスの感染者増加により休止となっている。10月以降は感染拡大予防を徹底しながら再開している。

車椅子利用者の職員による歩行訓練は引き続き週2回午前中に行った。

(5) 行事・余暇活動

新型コロナウイルス感染が落ち着いた時期(9月~12月)に3年ぶりにグループ外出を行った。

また、近場への昼食購入外出を10月~12月で実施した。利用者3~4名、引率職員1~2名の小グループにて行った。いずれの回も普段よりもゆとりをもって職員とのコミュニケーションを取ったり利用者それぞれが楽しんで参加している様子だった。

○スイカ割り

8月10日に新型コロナウイルス感染防止の為、スイカ割りは行わず給食時に切ったスイカを提供した。「美味しかった。」と感想が聞けた。

○節分(豆まき)

2月3日に新型コロナウイルス感染防止の為、豆まきは行わず給食時に甘納豆を提供した。高齢の方が多く甘納豆にした為か、皆よく食べていた。

○お楽しみ会

12月28日にアンジュ内で還暦を祝う会・職員の永年勤続表彰式・ビンゴゲーム大会・Wiiを使用したボーリングゲームを行った。

ビンゴゲーム大会においては、ビンゴゲーム用のカードを分かりやすい絵柄に作製したカードを使用し、1等から15等賞までは賞品を渡し、それ以外の方にも参加賞を渡した。ビンゴゲーム大会やWiiを使ったゲームも盛り上がり好評だった。

終了時に、利用者全員に記念品のタンブラーやお菓子を配布し、楽しかったと感想が聞けた。

4. 健康管理

毎月体重・血圧測定を行い、定期健康診断を行った。また、昨年度に引き続き感染予防として、午前・午後の2回検温、活動前・昼食前の手の消毒、手すりや送迎車内等の消毒を行った。

○体重・血圧測定 毎月末

○利用者定期健康診断 9/29

5. 地域交流

福祉を学ぶ学生の現場実習を複数名受け入れた。また、区内中学の職場体験実習の受け入れも12月に3年ぶりに行った。

6. 防災

感染予防の為、避難訓練という形は避け、防災ビデオを観賞し、地震・水害・火災時の対策を学んだ。また、日常的に避難路の確保に努めた。

9/8 防災ビデオ鑑賞 (地震・水害・火災)

2/27 防災ビデオ鑑賞 (地震・水害・火災)

7. 苦情受付

利用者からの当施設に対する苦情は今年度も見られなかったが、GH職員への苦情の受付を行った。また、利用者が直接言えない案件等を職員を通じて伝える事で改善等が見られたケースがあった。

8. リスクマネジメント

今年度も大きな事故は無かったが、常に安全面での配慮は必要な利用者も居り、その都度ミーティング等で改善案の提案、職員の配置等について検討を行った。



9. 職員研修

(1) 職員研修

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライン研修が主となったが、集合研修にも数回参加する事が出来た。

① 外部研修

- 利用者さんの飲む薬を知ろうー精神に作用する薬を中心に(オンライン)
6/29 池上
- てんかん基礎講座(オンライン) 8/2・9・10 佐藤
- ダウン症支援セミナー 8/7 池上
- 日本自閉症協会全国大会佐賀大会 10/8~9 池上
- アドラー心理学に基づく勇気づけのリーダーシップ (オンライン)
11/2・16 嶋村
- 強度行動障害支援者養成研修(実践)(オンライン) 10/24・25・31・11/1・2 佐藤
- 強度行動障害支援者養成研修(基礎)(オンライン) 11/10・11・14・18・21 阿久津
- 自閉症スペクトラム症(ASD)支援のアップデート 12/17 李・高橋

② 内部研修

今年度は職員が職員会議において一人1回講師となり内部研修を行った。

- 4月 とっさの対応を学ぼう 樋口
- 6月 生活習慣病(糖尿病編) 嶋村
- 8月 ダウン症の健康管理 池上
- 10月 権利擁護と虐待防止 阿久津
- 12月 てんかん発作の介助 佐藤
- 1月 文章を書く上で意識している事 高橋
- 2月 ロボット及び人工知能を用いた自閉スペクトラム症の支援 李

シード・フォレスト 原町成年寮就労定着支援センター 2022年度事業報告

シード(生活訓練)

フォレスト(就労移行支援)

原町成年寮就労定着支援センター(就労定着支援)

シード（生活訓練）定員15名

フォレスト（就労移行支援）定員20名

原町成年寮就労定着支援センター（就労定着支援）定員なし

1. 利用状況 月間平均利用者数 合計62.4人/月

シード 平均利用者数 14.6人/月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数		16	16	15	15	15	14	15	15	15	14	13	13	176
新規利用		5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
退所者		0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	5
退所者内訳	うち就職	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	うち就労移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち他施設	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	4
実習・体験利用者		0	1	2	3	7	0	1	2	0	0	0	0	16

フォレスト 平均利用者数 18.8人/月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数		24	22	21	22	22	21	19	18	15	15	14	13	226
新規利用		10	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	13
退所者		2	0	2	1	1	1	1	3	0	1	1	0	13
退所者内訳	うち就職	2	0	2	1	0	1	1	3	0	1	1	0	12
	うち生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	うち他施設	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
実習・体験利用者		0	2	4	1	5	2	4	1	1	1	2	1	24

原町成年寮就労定着支援センター 平均利用者数 29.0人/月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	29	32	31	31	29	29	28	28	28	28	28	28	349
支援件数	29	33	35	34	29	29	30	30	29	31	30	29	368
職場訪問件数	6	1	12	11	3	9	9	12	5	15	13	7	103
利用終了	0	1	1	2	0	2	0	1	1	0	1	0	9
新規利用	3	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	1	8

2. 支援体制

訓練プログラム

シード

・シードでの体を動かすプログラムが定着してきた。利用者の動きも、周りの状況を見ながらどうすればよいかを考えて動く場面が多くみられるようになってきた。保護者へのコーチングを実施したケースでは、家庭での自立度を向上させることができた。

フォレスト

・フォレストではこれまでのプラスのフィードバックによる行動の定着を引き続き行った。また、コロナの影響で書類審査、面接が必須の企業が増加してきたため、履歴書作成と面接練習の時間を多く作るようにした。特に履歴書作成では、ほぼ全員が丁寧に履歴書を仕上げることができるようになり、面接練習でも緊張した場面での声出しが上手にできるようになった。

就労定着支援

訓練不足による定着不安と離職が引き続き起こった。

再利用して就職した利用者に対しては訓練中の支援方法を変更することにより、本人の意識の変化を見ることができたケースもあった。また、繰り返し不安定になる利用者もいたが、職場の理解と協力もあって、都度落ち着きを取り戻すことができていた。

3. 事業目標達成状況

① 地域に開かれた施設運営

1. 毎月ブログ記事の更新を行った。
2. 夏休み体験講座、春休み親子見学会を開催した。実習、体験利用者はシードとフォレストで年間利用者数40名。
3. 保護者向けにコーチングを実施。親子の関係性を変えていくことで家庭での行動改善ができるように働きかけを行った。

② 心と体のバランスを整える訓練プログラムの導入

1. シードにおいて、歩行訓練、体操、ダンスなど体を動かして環境に合わせるための訓練をする時間を確保。指摘されてから行動を修正するのではなく、周りを見ながら自発的に行動できるように訓練を行った。
2. フォレストでは、将来の職場での行動を想定し、適切な行動を繰り返すことができるようにプラスのフィードバックと、面談時にはどうすればよいかを考えてもらう時間を作るよう

③ フォレスト目標就職者数15名

フォレストからの就職者数は13名。

令和4年度

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

多機能型事業所：（生活介護事業・就労継続支援B型事業）

シャイン

I 運営

利用者と職員の健康を守りながら、運営と活動に臨機応変な対応が求められる一年だった。法人内の通所事業所や居宅事業所また他法人の事業所とも連携し事業の継続に努めた。訪問看護事業所と契約し利用者の健康維持を図った。

(奥戸福祉館と送迎体制の連携・パン配達の協力・利用者職員の交換実習等)

(GHなぎさ・みさき・ゆるりの日中支援の連携協力)

(他法人事業所から食材の仕入れや食材の受注)

【利用者組織体制】 (2023.03.31)

就労継続B型事業所 定員 10名 利用者現員 10名 (男性：5名・女性5名)

生活介護事業所 定員 30名 利用者現員 31名 (男性：25名・女性6名)

(本体：定員 28名 利用者現員 32名)

(つむぎ：定員 6名 利用者現員 7名) (キッチンキス：定員 6名 利用者 2名)

【会議・研修】

職員会議：月 1回・全職員・ケース会議：随時・給食会議：月 1回

軽作業会議：月 1回・つむぎ会議：月 1回 虐待防止委員会：年 1回

各研修：内部・外部 (虐待防止・感染予防等)

【就労支援事業会計】

売上 (53,884,985) 円

【食品52,422,918】

給食 (36,947,790)・お惣菜 (151,388)・お弁当 (88,100)・GH配食 (15,235,640)

【つむぎ1,004,300】

公園清掃 (425,448)・駐車場清掃 (294,331)・野菜販売 (38,211) 受託作業 (246,270)

【雑貨累計 274,017】

KURUMIRU(4~3月) (129,217) , FRACTION(12~3月) (124,800) , その他 (20,000)

※自主生産品の委託販売先が増え、昨年より売り上げが上がった。

【雑収入187,790】

定期便 (120,000)・自販機手数料 (63,790)

☆利用者工賃平均工賃

令和4年度 (185,268) 円/年 (15,439) 円/月

II 生活介護事業所

☆利用者工賃平均工賃

令和4年度 (185,366) 円/年 (15,447) 円/月

【作業活動】

所内清掃と所内消毒、給食作業に使用する白衣等の洗濯・乾燥・保管を行い、食品に携わる施設として衛生を保てるよう努めた。その他、給食・洗浄作業や地域清掃、社内便封筒の作成、など個々の能力に合わせた作業を提供している。自主生産品では、プラバン・レジンアクセサリーの製作を行っている。健康面に配慮し、ラジオ体操 (第1から第3) と骨盤底筋を鍛える体操を実施した。また利用者の高齢化に伴い認知症予防の体

操を実施した。PT（理学療法士）を招き機能訓練を実施した。

【従たる事業所 つむぎ】

コロナウィルスの流行もあり活動の制限もあったが、大きな環境の変化もなく、通常の活動を続ける事が出来ている。

◆作業面

①園芸作業（自主生産）

外部販売（マルエイ西葛西店 風のマーケット）ではシトウやハーブ等の売り上げも良く、来年度も主力商品として生産していく。堆肥作りもおこなっている。

②清掃作業

公園清掃（区委託事業）→週2回、定期的に清掃をおこなっている。

駐車場清掃（外部受注）→コインパーキング清掃。

地域清掃（地域貢献）→作業の状況に合わせ、近隣の地域を中心にゴミ拾いをしている

③外部受託作業

ハトメ作業（外部受注）

④自主生産作業

プラバンのキーホルダーを作成。奥戸福祉館と連携し、ゆず屋にて販売を行った。

⑤ウォーキング

利用者の体調に配慮しながら週3回は必ずウォーキングを行っている。

⑥創作活動

手形アートを制作、障害者作品展に出展している。

◆宿泊訓練

コロナウィルスの影響もあり行っていない。

◆実習生受け入れ

12月より奥戸福祉館利用者1名がつむぎで実習をおこなっている。

【従たる事業所キッチンKISS】

- ・シャインの従たる事業所として活動。アンジュとシャングリラの昼の配食を行った。
- ・3月に棚卸しを行った。
- ・来年度の体制の為に備品や配達ルート等引き継ぎを受けた。

Ⅲ 就労継続支援B型事業

☆利用者工賃平均工賃

令和4年度（188,384）円/年 （15,699）円/月

【作業活動】

配食を主な活動としHACCPを守りながら、一般就労を意識できるよう支援を行った。法人内のロックダウンしたグループホームに、食事(朝食・昼食・夕食)の提供を土日含め行った。同法人内の事業所葛飾区内の他法人事業所の自主生産品(パン・精米)を配食に使用した。また、他事業所からの配食も受注している。

【食事提供】

①調理作業

技術向上を目指し、各利用者に合わせて作業提供をした。HACCPに基づき食品の取り扱いや大型機器の取り扱いなど、衛生的且つ安全に行えるよう努めた。²

②配膳作業

- ・コロナウイルス感染予防を考慮した弁当容器や備品を使用し、安全な食事提供に努めた
- ・喫食者個々のニーズに合わせて食事形態(刻み食、減塩食、代替食等)の対応を行った。
- ・衛生への意識を高め、食べる人を意識した盛り付けへの配慮を心がけた。

③洗浄

- ・各々役割に対する責任や作業効率を上げられるよう支援を行った。必要に応じて備品の補修、修理を行っている。
- ・洗浄機の点検を外部業者に依頼して半年に1回行った。

④配達・回収

- ・昼食、夕食共にゆとりを持った時間配分で安全運転での配達を実施している。
- ・昼食配達時に気持ちのいい挨拶が出来るように努めた。
- ・グループホームの配食先の状況に合わせて配達ルートの調整を行った。
- ・夕食では回収した保冷バックを消毒し、袋に入れて回収することで感染の予防に努めた

⑤衛生

- ・HACCPに基づき諸々の衛生管理を実施した。
- ・細菌検査を月1回行った。
- ・調理従事者は、入室時、健康チェック及び身だしなみチェックを毎日行った。
- ・調理、配膳室には、2回の手洗いとトリミングをを行ってから入室し、手洗いには専用の液体石鹸、爪ブラシ、ペーパータオル、アルコールを使用した。
- ・インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルス感染予防として、調理従事者への健康チェックの強化、館内の消毒を毎日行った。
- ・厨房等の害虫駆除を外部業者に委託して実施した。飛来昆虫捕虫テープの交換を行った
- ・グリストラップ清掃を外部業者にも依頼して実施した。
- ・保健所の立ち入り検査があったが、特に大きな指摘事項は無かった。
- ・検食及び保存食を行った。

⑥栄養指導

- ・食事療法が必要な利用者には、その都度アドバイスを行った。

⑦異物混入及び事故対策

- ・毎日作業終了時に報告し合い事故対策や防止に努めた。

⑧献立発注

- ・栄養価のバランスや行事食等の楽しみを考慮し献立を作成した。

【就労】

- ・一般就労を希望する利用者とハローワークへ行き、会社に履歴書を送付した。
- ・東京しごと財団主催の障害者就職面接会に参加し、面接を受けた。事前に面接の練習や履歴書・職務経歴書の作成を行った。また、委託訓練事業にも参加し、民間企業で実習を行った。
- ・アフターケア

Kさん 電話での相談

Tさん 他法人との連携

【食品売上】

給食配食（昼食：180～210食／日）GH配食（夕：60～100食・朝：40～50食／日）

食品売上（52,422,518）円

材料費（26,830,244）円

粗利益（25,592,274）円

(R4) 食品売上 (pq) = 52,422 円 48.820

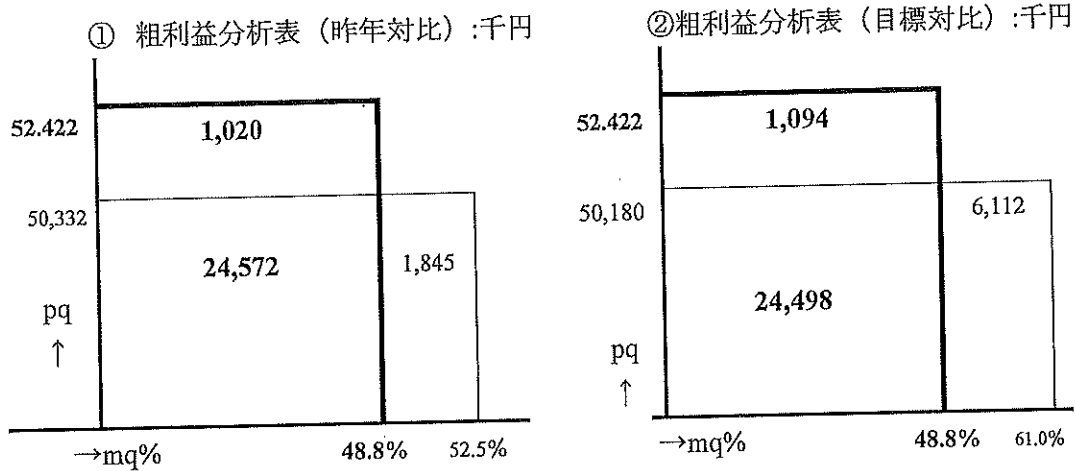
粗利益 (mq) = 25,592 円 (粗利益率 48.8%) (mq%)

(R3) 食品売上 (pq) = 50,332 円 52.486

粗利益 (mq) = 26,417 円 (粗利益率 52.5%) (mq%)

(売上目標) 食品売上 (pq) = 50,180 円

粗利益 (mq) = 30,610 円 (粗利益率 61.0%) (mq%)



★①昨年対比より、売上が上がったが利益率が下がった為に利益が減ってしまった。

②目標対比より、売上が上がったが利益率が下がった為に利益が減ってしまった。

※新型コロナウイルス予防の為、使い捨て弁当容器を使用する期間が長引き材料費が上がってしまった。また、食材費の高騰も要因として考えられる。

【食品販売】

① 惣菜販売

新型コロナウイルス感染予防の為、対面での惣菜販売は中止している。他法人グループホームから定期注文を受けている。

② 弁当販売

他法人通所施設から注文を受けている。イベント販売は参加を見送っている。

【雑貨】

① 折り紙レジンアクセサリー、プラバンアクセサリーの作成を行った。

② 今年度もレジンアクセサリーをKURUMIRUから受注し、各店舗（東京都庁B1F・錦糸町店2F・伊勢丹立川店4F）にて販売している。

③ 今年度も引き続き「ゆず屋」にて折り紙レジンアクセサリー、プラバンアクセサリー

を販売している。

引き続きAssociation MUKUを通してフランスでも販売されている。

- ④ 9月、KURUMIRUを通してギフトショーにアクセサリーを出展した。その際に「有限会社FRACTION」から受注があり羽田空港の売店で販売されることになった。

【販売会・受注販売】

新型コロナウイルスの影響もあり、販売会への参加は行わなかった。

IV 利用者ケース

利用者ケース

・Kさん(女性)

一般就労退職後、2月に実習を実施、3月より正式入所している。腰痛があり休むこともあったが、通院や作業場所の選択により安定している。

・Kさん(女性)

11月に居室にて転倒。その後通院し、左肩の脱臼かつ骨折と診断を受けている。治療とリハビリを実施。1月にリハビリ終了となった。

・Yさん(男性)

3月造影剤CT検査の結果副腎に転移が見つかった。本人治療を希望している。

・Kさん(男性)

1月に背中の中の痛みの訴えがあり、レントゲンの結果、背骨の1か所に骨粗しょう症が原因の圧迫骨折がみられた。コルセットと週一回の痛み止めの注射を受けている。その後食道炎・貧血・足のむくみ等が見られ通院、服薬をしている。

・Tさん(男性)

10月の休日に単独で秋葉原へ外出、出先で痙攣、転倒し救急搬送されている。今回右側の痙攣があり、左脳の脳梗塞の手術痕があることからおそらく疲れなどで痙攣を起こしたのではないかとこのことで、症候性てんかんと診断を受けている。入院中にリハビリを実施。退院後はそれまでと同じ生活で問題ないとのこと。その後も変わりなく過ごしている。

・Mさん(女性)

9月頃から退所の希望が多く聞かれるようになり、ケース会議や対話を実施。理由としては、通所期間が長いことによる飽きや、年齢や体力への不安をあげていた。様々な提案をしたが気持ちは変わらず、別の施設や就労の希望もあった。その後もケース会議や対話を重ねた結果、退所を撤回している。年齢や体力の不安とは別に、作業中に職員から指摘を受けたことに対し、不満があったとのことだった。撤回した理由については年齢的に新しい場所へ行くことの難しさや、慣れた場所での活動の希望、指摘をした職員については時間の経過とともに自身で振り返り解消できたとのことだった。その後も活動を継続している。

V 学習支援

希望する利用者に向け、読み書きや計算、塗り絵、英語等の学習プリントを提供した。成果を実感できるように、個人の専用ファイルを使用した。コロナ禍により活動が制限される中、学習と余暇につながった。利用者より、調理師の資格取得に向けて勉強したいとの話があった。施設既存のテキストを用いて学習を行った。

VI 行事

コロナ禍により、全体余暇外出やふれあいマルシェ等行事が実施できないものが多くあった。ワクチン接種や感染状況が落ち着いている時期に合わせて、可能な限りの行事を実施している。少人数での余暇外出、ハロウィンやクリスマス、豆まき等の年中行事も感染防止対策を講じ行った。古希や還暦などのお祝い行事も徐々に実施予定。今年度も引き続きバースデーカードのプレゼントで誕生日のお祝いを行った。お花見は3年ぶりに近所の公園で昼食をとる形をとった。

VII 保健

【定期健康診断】

利用者・職員共に実施した。

【健康管理】

- ・ 昼食前後の服薬はチェックシート、服薬ボックスを用いて確認を行った。
- ・ 臨時薬（服薬・点眼・塗布薬）は適宜確認を行っている。
- ・ 毎月、血圧体重測定を実施。必要時は家庭やGH職員、看護師と情報を共有している。
- ・ 血圧が高い傾向にある又は高血圧の方は、毎朝通所所に血圧測定を実施した。
- ・ 家庭やGHと連絡を密にとり、健康管理に努めた。

【新型コロナウイルス】

新型コロナウイルスを始めとし季節性インフルエンザやノロウイルス等の感染予防に施設全体で取り組んだ。抗原検査を実施した。感染者や濃厚接触者が発生した際は、保健所の支持に従い速やかに消毒、PCR検査を実施している。

【その他】

毎月細菌検査を行った。結果は全て陰性であった。

【PT】

PT（理学療法士）を招き、必要な方が受診している。年度当初に受診、半年後に見直し年度末に総括を行っている。受診後、ここに機能訓練プログラムを組み、週三回程度継続して行った。猫背等骨格のゆがみ、腰痛など身体の痛みやこわばりが軽減する等効果があらわれている。

【訪問看護】

年度途中より、就労継続支援B型利用者を対象に(株)デカルトケアーズによる訪問看護を導入している。健康相談や状態把握、必要に応じて受診の推奨等があった。利用者の健康に関する安心感にもつながっている様子。

VIII 防災

【自衛消防訓練(火災、地震、水害、不審者対応)】

火災、地震を想定し第一時避難訓練場所へ避難する訓練を行った。(コロナウイルス感染予防の為、密にならないように行った。)水害の避難先はシャイン建物4階へ階段を使用し垂直避難訓練を行った。また不審者の侵入を想定し、不審者に対応した訓練を行った。従たる事業所つむぎ・キッチンクスでも一部同様な訓練を実施している。

IX 地域交流・地域支援

- ・法人内グループホームへ、日中支援や夜勤業務などの乗り入れを行った。
- ・地域清掃…利用者の作業として行った。
- ・町会…地域や町会の行事は、感染対策の実施や縮小した形で行われ、参加し交流を深めている(奥戸天祖神社例大祭・餅つき・大しめ縄・年末年始の初詣準備・森市地藏供養)

X ボランティア

ボランティア

新型コロナウイルス感染予防の為受け入れはしていない。

2022年度

生活介護事業所シャングリラ

事業報告

1. 全体

全体としては新型コロナウイルスに引き続き翻弄される1年だった。感染防止対策は継続し、利用者のニーズに合わせた個別支援計画に基づき介護や創作活動、生産活動等を行った。行事等については、社会状況を見ながら判断し規模を縮小するなど工夫と延期することで計画どおり実施した。

新型コロナウイルスの影響は続いたが、関係する他事業所との連携また職員全体で連携・協力して運営の安定に取り組んだ。

2. 利用者状況

○在籍状況 男性20名 女性11名 合計31名(定員40名)

○平均年齢 男性67.0歳 女性58.8歳 全体64.0歳

○年齢別(3月末)

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	1	3	1	5	8	2	20
女性	0	3	2	5	1	0	11
合計	1	6	3	10	9	2	31

○支援区分別 平均支援区分(3月末)

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	1	4	6	2	7	20
女性	0	0	3	2	6	11
合計	1	4	9	4	13	31

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	19	22	20	19	20	20	20	20	18	18	22	238
利用者数	31	32	31	33	33	33	34	34	34	33	33	33	394
平均人数	71.3	72.1	70.9	73.4	74.5	73.5	74.5	70.6	65.1	69.2	72.8	71.5	71.5
新規利用		1		2			1						4
利用解除		1							1			2	4
出席率	71.3	72.1	70.9	73.4	74.5	73.5	74.5	70.6	65.1	69.2	72.8	71.5	71.5

○新規利用4名/5月GH1名・7月他事業所2名・10月GH1名

○退所者4名/5月施設入所1名・12月高齢者施設1名・3月死亡1名・入院1名

○職員体制

管理者1名(兼) サービス管理責任者1名 生活支援員16名(常13名・非3名)

看護職員1名 運転員1名 事務職員1名

3. 利用者支援

○軽作業

午後の活動時間を作業とし、利用者個々の能力に応じた作業を提供することで自信を持って行っていた。また、作業時間が短いこともあって、体力面も考慮した無理のない範囲で作業を提供することができた。

作業収入 306,237円

○創作活動

キャンパス手芸の作成、組み紐や編み物、季節のロールピクチャーや壁面装飾の作成や、個人に合わせたドリルや漢字の書き取り、ぬり絵等の学習活動も行った。

利用者が作成した作品は室内に飾り、一部の作品は東京都障害者作品展に応募し、区の障害者作品展にも展示した。利用者が作成したクリスマス飾りや正月飾りは奥戸福祉館が運営するゆず屋と12月の区役所販売会で販売した。

販売収入 40,700円

○音楽活動

新型コロナ感染症防止のため、今年度も音楽活動は中止とした。

○機能訓練

理学療法士の協力を得て、歩行訓練やストレッチなどに取り組み、身体機能の維持に努めた。また、理学療法士による機能訓練は新型コロナウイルスの影響からできない月もあったが、個人訓練を維持するため職員が実施した。

全体での嚥下体操は感染予防のため自粛したが、嚥下に不安のある利用者に対しては個別に訓練を実施した。

○入浴

16名が週1回～週5回と回数は違うが入浴の希望があり利用した。機能の低下とともに着脱に時間が掛かるようになり一人40～50分の利用となっている。入浴が午後に掛かることもあるが一日平均9名が入浴した。

○余暇・行事

余暇・行事に関しては、新型コロナウイルスの影響もあったため、職員会議で検討し少人数にするなど工夫し計画通り実施した。

また、ドライブで気分転換を図るなど楽しみを持てるような内容で活動を行った。

余暇

- ・ドライブ 週1回～3回程度実施
- ・運動レクリエーション 月1回、
- ・クッキング 6/27 1/19 2/16
- ・すいか割り 8/3
- ・昼食外出 5/24 5/26 6/6 6/9
- ・小グループ外出

- ポーリング 7/11 明神の湯 7/12 7/13
- 地下鉄博物館と焼肉ランチ 9/22 9/27 10/12 10/20
- ハゼ釣りとソラマチ 10/18 荒川遊園地 10/14
- 船堀タワーとしゃぶしゃぶランチ 10/20 11/1 11/17 11/18
- ・ハロウィンレクリエーション 10/25
- ・豆まき節分レクリエーション 2/3
- 行事
- ・納涼祭 8/23 ・長寿を祝う会 9/20 ・お楽しみ会 12/28

4. 健康管理

健康面では日頃から利用者の健康状態を把握し定期的な健康観察のほか、年1回の健康診断を通して、嘱託医への相談と必要に応じてグループホームへ助言し連携を図った。

○体重・血圧測定 毎月末

○利用者定期健康診断 9/29

新型コロナについては、2名の利用者が活動中に発熱し隔離後、抗原検査で陽性反応が出た。職員については、感染対策で東京都集中的検査（抗原検査）を週2回実施した。

業務前の抗原検査で11/4に2名、12/2に1名が陽性となり自宅療養となった。事業所内で感染が拡大することはなかった。

5. 防災

利用者の安全を最優先とし、火災・地震等の不測の事態を想定し避難訓練の実施と、防災ビデオを視聴した。職員全員が避難方法、避難場所の確認など共通認識をもち行った。

- ・6月20日 (地震想定) 避難訓練 ビデオ視聴
- ・9月15日 (地震想定) 避難訓練
- ・12月12日 (火災想定) 避難訓練 ビデオ視聴
- ・2月7日 (予定) 避難訓練

6. 苦情受付・虐待防止

事業所において、苦情および虐待に関する相談や案件はなかった。利用者間のトラブル等は、その都度個別に対応し解決した。

虐待防止については、身体拘束等の適正化のための指針を作成し職員に周知した。

7. リスクマネジメント

ヒヤリハット3件、事故報告5件があった。送迎車のドアを擦る、工事中の溝に脱輪、点眼の忘れや歩行時の転倒等があがった。発生状況の確認や事故防止策の検討を行い、職

員間で共有することで支援に活かせるよう努めた。また、車両については、安全確認を徹底し運行するよう周知した。また、道路交通法改正に伴い10月から安全運転管理者の配置とアルコール検知器でのチェックが必要となり、9月より送迎前に検知器でのチェックを実施した。

8. 地域交流

余暇活動を通して事業所外の人との交流を深めつつ、買い物や食事の仕方について体験をしながら学んでもらった。

近隣の大学生からボランティア体験の申し出があり受け入れた。

- ・大正大学学生1名 3/6.7.9

9. 職員研修

○内部研修

- ・応急手当（CPR手順・AEDの使い方）8/30
- ・不適切なケア 9/28
- ・障害者虐待のグレーゾーン 3/15

○外部研修

- ・東京都強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）山口 11/14・15・18・21
- ・東京都サービス管理責任者（基礎研修）岩澤 11/8・9・10・29・30
- ・東京都サービス管理責任者（実践研修）嶋村 1/6・24・25
- ・東京都サービス管理責任者（更新研修）西岡 12/9.1/13
- ・高齢知的障害者への支援のあり方 丸山美 1/19
- ・虐待防止・権利擁護研修 春日 2/16
- ・移動支援従事者養成研修 金澤 2/4・5・22 竹田 2/4・5・24
- ・安全運転管理者講習 崎代 3/2

10. 各委員会

○虐待・身体拘束防止委員会（年2回）

虐待防止における研修等を委員会が中心となり企画・実施し、人権擁護に対する認識を深めた。

○苦情解決委員会

法人内各事業所の委員が集まり苦情受付から対応・報告までの勉強会が毎月あり、苦情受付担当者が参加した。

○感染対策委員会（年1回）

感染対策用の備品の確認と補充を行った。また、手指消毒液の設置場所を増やしどこでも消毒できるようにした。